【資料】平成29年度　神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の４項目をその「使命」として位置づけています。

(1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。

(2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。

(3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。

(4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の４つの**「博物館使命の4大要素」**を定め、これらが包含する事業に対する**自己点検評価**を行っています。

１．歴史と文化の継承と研究
２．歴史と文化への窓口
３．人々とともに歩む
４．やさしさと安心の確保

平成29年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の**「総評」**は下記のとおりです。

【総評】

平成29年度の神戸市立博物館事業自己点検評価は、「博物館使命の4大要素」のうち「３．人々とともに歩む」がA評価、他がB評価となった。

「１．歴史と文化の継承」については、様々な課題が残されてはいるが、より緻密な所蔵品管理の手法が構築されつつあることが評価される。所蔵品を未来に継承させるための地道な取り組みの継続と、リニューアルを視野に入れた一層の調査研究の充実が望まれる。

「２．歴史と文化の窓口」について、入館者数に関しては、平成29年度374,690人（常設展5,965人、特別展367,663人、普及事業1,062人）と、平成30年2月5日よりリニューアルのため休館したにも関わらず、平成28年度を上回ることができた。特別展の満足度においては、「開国への潮流展」が84.3、「ボストン美術館の至宝展」が84.4と高い評価を入館者からいただいた一方で、開催準備や展示手法での問題点がいくつか指摘されており、リニューアル後の検討課題としたい。

「３．人々とともに歩む」については、学習支援交流員の活動の活発化、135校（７,564人）の学校団体の来館対応、131校（9,026人）に対する連携授業を実施するなど、平成29年度も非常に充実した事業を展開できた。

「４．やさしさと安心の確保」については、リニューアル工事前の最後の年度ということで、大掛かりな設備の追加・更新は行えなかったが、施設管理・運営業務を概ね円滑に行うことができた。リニューアル後の新しい態勢への検討も着実に行われ、これを過不足なく構築することが求められる。

以上の事業自己点検評価において明らかになった問題点・課題を意識することで、平成30年度事業の改善を着実に行いたい。リニューアルについては、昭和57年開館以降初めての大事業であるが、平成28年度に策定された『神戸市立博物館リニューアル基本計画』に基づき基本設計・詳細実施設計を行い、本格工事の事前準備を行うことができた。博物館１階を無料開放するなど「まちに開かれた博物館」、神戸の歴史と文化を「わかりやすく伝えるための再構築」、アメニティ設備の充実など「博物館機能のさらなる充実」の実現に向けて取り組んでいく。平成30年度は休館となるが、リニューアルオープン後の博物館が、資料保存・研究機関としての基礎をより強固なものにするとともに、より充実した内容の展覧会や普及事業を展開し、歴史と文化に接する拠点として、さらに多くの市民・来館者に親しまれることを目指していく。

※自己点検評価の詳細については、次ページ以降（2~47）を参照してください。

1. 歴史と文化の継承

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 資料保存の点では地味なことではあるが、モニタリング等の実施によって十分な指標が整いつつある。次年度以降、学芸員のなかで共有化を図り、利用していくことが求められよう。また、補修についてはその方向性（計画性）の策定が望まれるところである。

一方で、所蔵資料の所在把握調査によって、全ての学芸員が重要物品にとどまらず網羅的に把握することができるように成し得たことに評価を与えて置きたい。これをベースに、次年度以降の取り組みの素地を図っていくことが望まれる。

収集や調査研究の面では、リニューアルという大きな課題があるなかで、一定の成果がみられたものと解しておきたい。継続が望まれる。

1-01　資料保存

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　資料の保存環境については、日常の学芸員の取り組みが定例的な業務として定着したことは評価できるが、これだけで万全な態勢がとれているわけではない。学芸員以外の職員・スタッフの意識や、さまざまなイベントにおける適切な処置が伴わなければ、理想的な保存環境には至らない。具体的には、特別展で搬入される資料作品や物品の状況の把握、1階ピロティでのゴミの扱い、一般区域での日常の清掃のあり方を改めて検証する必要がある。

所蔵・寄託資料の所在・移動管理については、重要物品の所在確認が完了し、重要資料候補については2,500件以上がリストアップされ、30年度から定例化される棚卸し作業のための準備がほぼ整ったと判断できる。

30年度以降は、保管転換などを視野に入れ、収蔵資料の適正化とその管理の効率化を図るべきである。

1-01-01　収蔵庫・展示室の保存環境は適切な状況を保てましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・毎週のモニタリング、毎月の清掃を確実に実施し、事案発生時は早急に館内で情報を共有して対処する。
・展示室、収蔵庫の通年での温湿度データの変化の傾向を確認し、特徴を把握する。
・IPM担当や学芸員だけでなく、博物館にかかわる全ての職員・スタッフにIPMの考え方を浸透させる。
【28年度実績】虫菌類のモニタリングについては、4階収蔵庫のトラップ交換(49箇所)を9回、ならびに夏期生物環境調査を7月と9月に2回実施した。定期清掃13回実施。殺虫作業6回。

D実施内容

【モニタリング】
・温湿度：毎週1回、温湿度計3箇所、データロガー17箇所の記録紙交換、データを吸い上げの上、館内で回覧を実施。
・4階収蔵庫トラップ交換：49箇所、9回実施。
・夏季生物環境調査：6月29日と9月12日の2回実施。

【清掃】
・収蔵庫清掃：毎月第3水曜日に、全学芸員で収蔵庫10・11の清掃を実施。床面の拭き取り、掃除機、棚の拭き取りを中心に実施した。そのほか、トライやるウィークや博物館実習の一環としても実施。また、地階などの収蔵庫についてはリニューアルに伴う整理作業と合わせて、適宜清掃を実施。
・特別展示室1・2・南蛮美術館室の展示ケース及び可動ケース：特別展・企画展での使用後に掃除機と粘着クリーナーによる清掃を実施。

【殺虫・燻蒸】
・薬剤散布による殺虫業務：特別展後を基本として、5月1日、7月24日、11月13日、2月23日に実施。散布箇所は館内の玄関周り及び水回りを中心とした。
・燻蒸作業：①7月25日～29日［地階ハロゲンポンプ室にて新規受入資料及び開国への潮流展借用資料］、②2月20日～24日［常設展示資料及び新規受入資料］

【その他】
・設備の老朽化等に伴い、温湿度の安定しない展示室4は閉館時に防火扉を閉じることで温湿度の変動幅が小さくなるよう努めた。
・びいどろ史料庫収蔵庫も湿度が安定しないため、除湿器を設置し、毎夕の除湿器の水回収を行うことで変動幅が小さくなるよう努めた。

自己評価の詳細 プラス面

・モニタリング、収蔵庫の清掃とも、定例化できており、問題発生時も中央監視室などと協力することで適切な対応をはかれている。

自己評価の詳細 マイナス面

・収蔵庫の清掃時に、棚の清掃まで十分にはできていない。長期的な清掃計画を立てて、順次進めるべきである。
・IPMへの取り組みが博物館全体としてはできていない。清掃業務については、ゾーニングに基づいた清掃と用具の使い分けを仕様書に明記が必須である。駐車場でのゴミの保管方法や、清掃用具等の設置場所についても不適切である。

1-01-02　所蔵・寄託資料の所在・移動管理は適切に行われましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・12月中に収蔵庫の所在確認調査記録を完成させる。 ・3月までに重要物品などの状態確認調査を行い、DB登録情報を確定させる。	【所在確認調査】 ・全4ヶ所の収蔵庫（収蔵庫1・10・11・びいどろ）にて、資料保管棚・場所の棚番号を付した上で、担当者ごとに調査箇所を割り振り、各棚・場所にどの資料が保管されているかを確認して、所在確認調査を記録化。 ・所在確認調査記録をデータベースに入力。進捗状況の共有と確認を図った。 ・所在確認調査記録の完成は12月末は困難となり、3月末までとなった。重要物品の確認を優先実施。 ・29年度末現在：所在確認調査対象の資料所在地1,655箇所の調査を実施。会計規則で定められた重要物品に該当する資料845件の所在確認が完了。これ以外にも重要（評価額100万以上）と思われる約1200件についても所在確認を完了。 ※重要物品とは、昭和56年度(1981)～昭和57年度(1982)の10万円以上の取得価額の購入資料、昭和58年度(1983)から平成15年度(2003)の30万円以上の取得価額の購入資料、平成16(2004)年度以降の価格・評価額が100万円以上の購入・寄贈・保管転換資料。	・所在確認調査記録を作成することで、個々の資料と棚番号が結びつけられ、資料の所在について、専門分野・担当を超えて、学芸員の誰でもが把握することが可能となった。 ・所在確認の作業を通して、資料の保管場所・状態・意義などを複数の学芸員で共有できる機会となった。特に、採用間もない学芸員にとっては、館蔵資料の理解と取扱を学ぶ重要な機会になった。	重要物品等、当館にとって重要と思われる資料の所在確認は初年度分の目標を達成できたが、その適切な所在配置・移動は完了できておらず、次年度への課題となる。

1-02　資料補修

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 29年度分として計画された対象の資料については、概ね計画通りに補修が完了できた。近年は博物館業界での修復事業のありかたが一般にも注目されるようになり、当館でも30年度は予算の拡充が図られることとなった。総合資料調査の結果を踏まえて、対象資料のリストアップと、中・長期的な視野での補修計画策定が30年度以降の課題となる。

1-02-01　どのような資料補修を行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

（資料状態は1-01-02の総合資料調査において把握を急ぐ）
・6月までに本年度の修理計画を決定
・3月末までに本年度修理を完了

【前年度実績】
・大規模修理：地図皿4点の接合、「摂州矢部郡車村妙法寺村石炭鉱之図」軸装
・小規模修理：近代美術資料保存箱等製作、掛軸2点の掛緒・巻緒交換、「二十四孝童子鑑」シール除去

D実施内容

・6月9日までに各資料担当者から補修希望資料を募り、緊急度の高いものを優先して今年度の補修資料を決定（11件のうち、9件）。以下のとおり、実施した。

【補修資料】
①源内焼地図皿　3件（南波コレクション、新2014-028）
・補修内容：平成26年度受贈時より破損していた、源内焼地図皿（軟質陶器）3点のクリーニング、接合、補彩修理
・工程：7月見積合わせの上、業者選定。8月30日資料引渡し。11月21日工房を訪問、接合状態の確認。1月16日2回目の工房訪問、補彩状況の確認。2月末補修完了。3月2日資料納品。

②文化7年　塩田村絵図（新2016-015）
・補修内容：本紙の肌上げを行い、新たに裏打ちを施す。紙巻、保存箱を作製。
・工程：10月見積合わせの上、業者選定。11月30日資料引渡し。3月31日納品。修理後は、巻いた状態で保存箱に収納。

③神戸市指定文化財「外国人居留地計画図」
・補修内容：総裏紙、増裏紙の打ち替え。表装裂、太巻付桐箱の新調。
・工程：10月見積合わせの上、業者選定。11月30日資料引渡し。3月31日納品。
　※②・③：1月に修理状況確認のため工房を訪問。②は本紙継ぎの工程まで、③仮張りの工程までを確認。

④近代の絵画資料の差し箱等の新調
・補修内容：差し箱4件、ブックマット1件の新調。
・工程：9月8日発注、同月20日納品。

⑤地図皿収納木箱の新調・修理
・補修内容：木箱（1件3点）の新調・修理。
・工程：11月30日発注、3月31日納品。
　※2点は新調、1点は箱蓋裏の桟を修理。

自己評価の詳細 プラス面

・今年度実施した資料については、概ね計画とおりに業務を完了した。

自己評価の詳細 マイナス面

・年度後半から業務にとりかかったため、時間的に余裕がない状況で資料補修を進める事例があった。総合資料調査の内容を活かしきれていなかった。

1-03　調査研究

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　28年度に設定したテーマに基づいた地域史に係る調査研究活動を着実に実施し、展覧会開催に向けたスケジュールを想定しながら進めることができた。

まず、【六甲】では、今後の調査研究活動のさらなる積極的な継続により、その内容の深化が期待される。担当者間での調整を十分に図りながらの進捗が必要である。一方で、【長春閣】では継続的な絵画作品の所在調査を実施していく中で、借用交渉の準備段階まで及ぶことができ、順調な進捗を図ることができた。

また、調査研究活動の基礎となるべき館蔵資料の総合資料調査を、館を挙げて継続的に取り組んでいるところであるが、分野により進捗状況に差が生じており、貫徹までにはいましばらくの猶予が必要であり、継続的な取り組みによるデータベースの確定が強く望まれる。

1-03-01　地域史調査研究活動はどのように行いましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

・28年度に設定した【六甲】をテーマとした調査研究の展覧会開催までのスケジュールを作成し、必要な調査、作業を進めていく。
・ 28年度に設定した【長春閣】をテーマとした調査研究の展覧会開催までのスケジュールを作成し、必要な調査、作業を進めていく。

【前年度実績】
・全ての分野で、個人による研究も含めて45ヶ所で調査活動を実施。

D実施内容

当館の調査研究計画として、以下の調査研究を実施した。

【六甲】
・展覧会開催までのスケジュールを作成。
・資料調査調査開始。館蔵資料のリスト化完了。
・関連研究文献のリスト化開始。
・天上寺の仏画調査を実施。
・灘区役所との協力体制の構築。
・次年度以降の調査先への調査依頼。

【長春閣】
2022年度の展覧会開催に向けてスケジュールを策定し、以下の調査・交渉を開始した。
・売立目録所収作品のPDF化
・作品所在調査
・文献調査
・展覧会を主催する実行委員会の交渉（新聞社2社と協議中）

自己評価の詳細 プラス面

【六甲】
・展覧会開催までのスケジュールを作成し、展覧会実施までの作業内容、作業手順を確認できた。
・館蔵歴史資料のうち六甲関係資料のリスト化を実施することができ、主に近代以降の六甲関係資料の性格を把握することができた。
・摩耶山天上寺の仏画調査において中世に遡る多数の仏画の存在が確認できた。
・石峯寺、無動寺という重要な寺院について次年度以降の調査実施への準備ができた点評価できる。

【長春閣】
・川崎家旧蔵品のうち、86点の所在を確認。うち、4点の調査を完了。
・川崎正蔵歿後110年にあたる2022年の開催に向けて、新聞社2社に主催を検討いただき、具体的な予算・スケジュール・借用交渉の準備を進めている。
・川崎正蔵のコレクション、布引に設けた「川崎美術館」について、明治～戦前の新聞記事を探索し、68件の記事を確認した。

自己評価の詳細 マイナス面

【六甲】【長春閣】とも、現状では、担当者間の連絡が密に図れていない。

【六甲】
・現地調査のスケジュールが立てられていない。
・関係団体との情報交換が十分できていない。

【長春閣】
・絵画の所在調査は進んでいるが、工芸品の所在調査が進んでいない。
・考古、歴史面での調査が実施できていない。

1-03-02　東西文化交流・古地図・その他の分野の調査研究はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

（総合資料調査などにおいて、南蛮紅毛美術・古地図資料・その他資料で顕著な資料整理や研究活動が行われた場合は、言及。）

【前年度実績】

全ての分野で、個人による研究も含めて45ヶ所で調査活動を実施。

D実施内容

・全ての分野で、個人による研究も含めて　30ヶ所で調査活動を行った。主な内容は下記のとおり。

【東西文化交流】

・長崎派、黄檗関係資料の調査
・特別展「ボストン美術館の至宝」関連資料の調査
・長崎版画と蘇州版画
・江戸時代の和ガラスの調査

【古地図】

・高知県立高知城歴史博物館、福井市立図書館が所蔵する古地図資料の調査。
・内外の図書館・博物館の、古地図に関するデジタルアーカイブの状況を把握。
・国際ワークショップ「日本の古地図ポータルサイト」に参加。

【歴史】

・特別展「開国への潮流」出品資料の調査
・豊岡藩家老・舟木家文書の調査
・廃業酒造蔵元伝来資料の調査

自己評価の詳細 プラス面

・各学芸員が、各自設定したテーマに関する資料、展覧会出品資料、及び関連資料について館外で調査を実施できた。
・調査研究の成果の一部は、展覧会、研究紀要、報告書などで、発表を行った。

自己評価の詳細 マイナス面

・昨年度の調査活動を下回ったが、リニューアル工事にかかる業務の増加も影響したものと思われる。

1-04　資料受入（購入・寄贈・寄託）

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 限られた予算でありながら、当館の趣旨にふさわしい資料・作品、特に近代の神戸関連史料が収集できた。29年度に行われた自主企画特別展に関連するものもあり、「歴史と文化」の「継承」と「窓口」を相互に機能させることができた。30年度からは資料受入時の事務手続きを明確化し、そのドキュメンテーションが早期に形成できることも期待される。

1-04-01　どのような資料を受け入れましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・当館のコレクションや活動方針に適切な資料を探し、購入を進めていく。
・寄贈、寄託に関しても、当館での活用がはかれるか、地域の文化財を保護するという観点から、検討をはかったうえで、適切な資料を受け入れる。

【前年度実績】
4件
(内訳)
古地図：蓬莱春升画「東海道鳥瞰図」
美術：佚山筆「薔薇葉鶏小禽図」、佚山筆「海棠牡丹寿帯鳥図」、川西英《メリケン波止場》1964年

D実施内容

【購入】　18件20点
・兵庫姫路電車沿線名勝案内　1件1点
・佚山筆「菊石図」　1件1点
・摩耶山案内　1件1点
・A REPORT OF A SPECIAL COMMITTEE OF THE GENERAL CHAMBER OF COMMERCE　1件2点
・摩耶山案内　1件1点
・古写真「神戸市中鉄道」　1件1点
・古写真「神戸浜手市中」　1件1点
・明治十年太政官御布告　1件1点
・池川御普請所仕様帳　1件1点
・生田宮御社頭為御修覆料橋本藤左衛門ゟ奉納銀一件扣　1件1点
・生田太神宮御鎮座由来並境内古蹟伝記　1件1点
・摂州矢田部郡坂本村医王山広厳宝勝禅寺略縁起　1件1点
・MESSAGE OF THE PRESIDENT OF THE UNITED STATES COMMUNICATING　1件1点
・略平家都遷　1件1点
・測量英船南紀日高郡由良湊ニ而碇泊滞船ニ付同国貴志組大庄屋元江問合其外諸事控（文久元年8月）　1件1点
・蝦夷行程記　1件2点
・北蝦夷餘誌　1件1点
・神戸外国人居留地計画図（複製）1件1点

【寄贈】　4件432点
・兵庫勤番文書　1件280点
・神戸港写真　1件1点
・東洋汽船株式会社ポスター　1件1点
・下田啓子氏旧蔵絵葉書　1件150点

【寄託】　3所蔵者　15件25点

自己評価の詳細 プラス面

・購入に関しては、限られた予算の中で、当館のコレクションや活動にふさわしい資料の収集につとめた。
・寄贈に関しては、リニューアル後の歴史展示での活用を想定できる資料の受入が出来た。
・寄託に関しては、地域の寺社に伝わる文化財の寄託が実現した。

自己評価の詳細 マイナス面

・限られた予算ではあるが、29年度は購入予算をすべて執行することができなかった。リニューアル等の業務に追われ、日々の調査研究、展覧会準備が十分にできていないことの表れと考えられる。

2. 歴史と文化の窓口

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　開港150年という記念すべき年に新たな視点を盛り込んだ「開国への潮流展」が実施出来たことについては評価ができよう。一方で、「ボストン美術館の至宝展」では、入館者数をみれば残念な結果に終わったが、相対的に歴史と文化の窓口の役割は果たせていると考えられる。評価のマイナス面については、今後の振り返りの中で活かす方向を持って欲しい。

館のリニューアルについては、「神戸の歴史展示」「コレクション展示」その他の項目にわたるまで、詳細設計にまでこぎつけることができた。展示工事が本格化する次年度に向けて、細部にいたるまで調整が図れる糧として活かせればと思う。

教育普及の面では、従来から行ってきた各種講座への学芸員の派遣も含め、文化庁の補助事業として新しい講座に取り組めたことが特筆に値すると考えられる。この点については、個々の研究も含めて、一層の飛躍を望みたい。

2-01　地域史関連の展示活動

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細・常設展示においては古代から近代にいたる神戸の歴史をストーリーに沿って展示し、インフォメーションスタッフによる解説により、より分りやすく伝えることができた。また、「みてコレ」のコーナーでは近年あらたに寄贈・寄託された地域資料を展示・紹介することができた。ただ、神戸関係資料に関して頻繁に展示替えできなかった点は反省点である。お客様の声では、好意的な意見が多かったが、マンネリ化や順路の分りにくさを指摘する声もあった。リニューアルにより改善すべき点である。

・地域史に関する展覧会として、神戸開港150年にあわせた特別展を実施できた。新史料をまじえ、これまで十分に解明されていなかった神戸の歴史を紹介するとともに、従来のワークシートに加えて、子供向け解説をあわせて掲示するなど、子供の展覧会理解を補助する仕掛けを構築できた。また短い会期ではあったが、講演会やシンポジウム、歴史たんけん隊など数多くの関連事業を開催し、多くの参加者を得ることができた。入館者数は目標には達しなかったものの、自主企画の歴史展としては入館者数・図録購入数とも過去最高であり、アンケートの満足度も高かった点は評価される。しかし開催に向けた準備が遅かった点、同時開催の南蛮・古地図企画展との連携が不十分であった点、収支バランスが取れなかった点、関連行政機関との連携を積極的に行えなかった点などが反省点である。

・ギャラリーにおいては地域の芸術家に焦点をあてた「版画家の絵と版画/彫刻家のデッサンと彫刻」に対し、来館者から好意的な意見が寄せられている。ただし設備の問題点として、ギャラリーは展示環境としては作品に好ましくない状況にあり、リニューアル後、どのように活用していくか検討を要する。

2-01-01　地域史関連の常設展示はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・神戸の歴史や文化が伝わるような展示を行う。
・資料の脆弱性を考慮した適切な頻度で展示替えを行う。
・インフォメーションスタッフによる常設展の見どころ紹介解説を行う。
・アンケートを設置し、来館者のご意見やご要望の声をくみとる。
・コレクションを紹介するコーナー「みてコレ」の担当学芸員・展示期間を定めた計画を作成し、それに基づいて「みてコレ」の展示替えを行う。

D実施内容

以下のとおり展示替えを実施した。

【常設展示室１】
12月21日　江戸時代の兵庫津について「摂津名所図会」など3点。

【常設展示室３】
12月21日　西洋の影響を受けた文化について「明治十八年婦人束髪法」など5点。

【常設展示室５】
4月4日　雪御所遺跡について「軒平瓦（唐草紋）」など3点。
9月13日　中世の兵庫津について「海東諸国記」を展示。
12月5日　中世の兵庫津について「足利将軍家御教書（複製）」を展示。

【インフォメーションスタッフによる解説】
常設展のみの期間中、37日間で48回実施、197人参加。各回平均は4.1人（小数第2位以下切捨て）。

【来館者からの意見】
「お客様の声」ボックス（常設展のみ開催中に設置）：来館者から以下の意見が寄せられた。
「静かで見やすかった。」
「学生の頃から歴史が苦手で見ても面白くないかなと思っていたが、改めて歴史上の人物の事や物を見たり、触れたりする内に今までより少しだけ興味を持つことが出来た。次来る時はもう少し勉強してから来たい。」
「いつも、よい企画を拝見しています。常設展の解説ありがとうございました。よい機会でした。」
※この他、特別展のアンケートにも、常設展の展示内容を評価する意見、常設展のマンネリ化や順路のわかりにくさを指摘する意見などがあった。

【「みてコレ」】
3点の地域資料を展示。
4月21日　神戸古地図（HYOGO AND KOBE）
10月28日　善福寺文書
12月19日　温泉寺伝来経箱

自己評価の詳細 プラス面

・常設展の展示替えを行うことで、古代～中世の神戸で暮らしていた人々の生活、海外と兵庫津との関係、江戸時代の兵庫津の様子、明治時代に日本が西洋から受けた文化的影響について、来館者により充実した情報を伝えることができた。
・インフォメーションスタッフによる常設展の解説によって、来館者に神戸の歴史をよりわかりやすく伝えることができた。
・「お客様の声」では、好意的な意見を多くいただいた。
・「みてコレ」では、昨年度末に寄贈された資料と、今年度寄託契約を結んだ資料を展示し、地域の歴史を伝える資料を収集している博物館の姿を、来館者に知っていただくことができた。また、歴史的にも美術史的にも貴重だが、常設展のテーマから外れてしまうため、現状では鑑賞できる機会が限られている地域資料を取り上げて展示できた。

自己評価の詳細 マイナス面

・神戸関連の資料の展示替えが少ない。
・インフォメーションスタッフによる解説を聞いた来館者の人数が少ない。
・館内に「みてコレ」の場所についての案内がない。
・SNSなどによる広報が積極的に行われていない。

2-01-02　特別展「開国への潮流」はどのように開催されましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

予算どおりの入館者を目指し、収支バランスを意識した適切な経費執行をおこなう。／アンケートの顧客満足度について83以上の数値を目指す。／資料の安全な集荷、展示、返却を目指す。／美しく見やすく、わかりやすい展示を心がける。／わかりやすく充実した展覧会図録を作成し、販売する。
・効果的な広報を実施する。／幅広い年齢層を対象とした関連事業を実施し、展覧会の内容についての深い理解を促す。

【参考】
・「須磨の歴史と文化展　受け継がれる記憶」平成28年2月6日（土）～3月21日（月・祝） 39日間　15,593人（有料率51.3%・平均400人/日）
・「よみがえる兵庫津」平成16年10月30日（土）～12月26日（日）　50日間　14,196人（有料率46.9%・平均283人/日）

D実施内容

神戸開港150年記念特別展「開国への潮流―開港前夜の兵庫と神戸―」

【会期】
平成29年8月5日～9月24日　44日間

【会場】
南蛮美術館室・特別展示室2・ギャラリー

【主催】
神戸市立博物館、神戸新聞社、NHK神戸放送局

【入館料】
当日一般800円、大学生600円、高校生450円、小・中学生300円

【入館者数】
19,347人（有料率56.7%、平均440人/日、最高9月24日1,002人）
※目標入館者数28,000人　達成率69%

【図録】
販売冊数1,022冊（購入率5.2%）（目標売上数1,400冊　達成率73%）

【収支バランス】
赤字

【アンケート満足度】
展覧会全体84.33　展示品の質85.95　スタッフ対応84.48

【関連事業】
①記念講演会：8月11日（金・祝）「近代港湾の黎明」（髙久智広　当館学芸員）160人
②記念シンポジウム：9月3日「神戸開港と港の近代化」（後藤敦史　京都橘大学准教授／添田仁　茨城大学准教授／冨川武史　品川区立品川歴史館学芸員）　160人
③サタデー・トーク：8回、540人（平均67.5人、最大9月23日115人）
④日本教育公務員弘済会鑑賞会：8月12日　100人、8月27日　109人
⑤子供向けイベント：8月20日歴史たんけん隊　37人、9月9日ジュニアミュージアム講座「開国のジグソーパズルをつくろう！」　6人

【その他】
一筆書きの導線を意識した、わかりやすい展示を構築できた。／展示室内に子供向けの解説を付し、展覧会への深い理解を促した。／デザイナーに総合的なデザインを依頼し、図版の近くに解説を付したわかりやすく美しい図録を作成できた。／安全かつ計画的に資料の事前調査、集荷、展示、返却を実施できた。／神戸新聞社、NHK神戸放送局による積極的な広報をはじめ、ポスター、チラシ、子供チラシ、交通広告、看板類、京町筋バナーなどにより、積極的な広報展開をはかることができた。ミニコミ紙にも多数掲載された。

自己評価の詳細 プラス面

・開港150年にあわせて、これまで十分に解明されていなかった開港前夜の神戸の歴史を新資料も交えながら体系的に紹介できた。
・入館者、図録購入数とも過去の自主企画歴史展の中で最高の成果をあげることができた。
・アンケートの満足度が、84.33と高かった。特に展示品の質が85.95と高く、新出資料によって神戸開港に向けた歴史的コンテクストを解明できた点が評価されたと考えてよい。
・NHK神戸放送局には主催として、開港150年関連の8K映像を1Fホールで放映するタイアップが実施できた。加えて、NHK地上波で広報展開できた点も評価できる。
・子供向けのワークシート作成に加えて、展示室内に子供向け解説も設置し、小、中学生の展覧会理解を補助するしかけを構築できた。
・講演会、シンポジウム、サタデー・トーク、歴史たんけん隊、ジュニアミュージアム講座、ミュージアム講座第1回、勤労市民会館での講演会など、幅広い年齢層に講座形式、体験型の参加事業を提供し、多くの参加者を得た。特に講演会、シンポジウムは、定員に達する参加者を得、地域の歴史の発信に大きな役割を果たすことができた。
・みなと銀行文化振興財団、日本教育公務員弘済会兵庫支部の協賛を得ることが出来た。

自己評価の詳細 マイナス面

・開港150年記念事業を展開する部署や中央区・兵庫区・須磨区など関連する行政関係機関とのタイアップを積極的に検討すべきであった。
・入館料をもう少し高く設定し、オリジナルグッズを開発、販売することで、収支バランスが改善された可能性がある。今後、自主企画展を開催する際に検討すべきである。
・展示造作、図録の編集、執筆について、計画的に進めていく必要があった。会期中、展示キャプション修正や図録の正誤表の作成、修正などが必要となった。
・英語の解説キャプションを準備することができなかった。
・一部の観覧者から、「展示解説が難しい」旨の指摘があった。
・9月9日のジュニアミュージアム講座の参加者が6名と少なかった。これは、実施日が夏休み明けであったことと、神戸市立小学校における子供チラシの全児童配布が取りやめとなったことが大きな要因とと考えられる。
・同時開催の南蛮美術・古地図企画展との連携が不十分であった。

2-01-03　ギャラリーでの地域史・地域文化展示はどのように行いましたか？

自己評価　C やや劣る

P課題と目標

・地域の芸術家に焦点をあてた展示を行う。

・展示施設としては空調、照明環境、順路が適切ではないことを考慮しつつ展示を行う。

D実施内容

「版画家の絵と版画／彫刻家のデッサンと彫刻」

【会期】

9月30日～10月22日　20日間

【会場】

ギャラリー、ホール

【企画】

それぞれの美術家の主制作と同時に、主制作とは異なる技法で制作した作品を紹介。鑑賞者に美術家の一貫した表現世界を感じ取っていただくことを期待して企画した。紹介作家は、神原浩（10点）、川西英（22点）、柳原義達（15点）。柳原作品は、1階ホールにも彫刻を展示し、合計42点の作品を紹介した。

自己評価の詳細 プラス面

来館者からの声として、「神原浩の作品に感銘を受けたのでまた開催してください」との意見がインフォメーションスタッフに伝えらるなど、内容的には来館者の期待に応えることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・ギャラリーの展示は、正面玄関またはエレベーターで２階に上がって鑑賞するように順路を構成するが、L字になったギャラリーは通路でもあるため、展示の半ばに特別展示室２からの出口がある。企画展と同時開催でギャラリー展示が行われている際には、多くの鑑賞者が企画展を鑑賞したのちに、特別展示室２の出口から出て、ギャラリー展示の途中から見ることになる。こうした場合、鑑賞者は、左右に展開するギャラリーの展示を、始まりの方に向かって逆行して見ることが多く、再度特別展示室２の出口のポイントに引き返して残りの展示を見るか、または、残りの展示は見ることなく１階に下りて帰ってしまう。展示のコンセプトに従って作品を鑑賞していただけないばかりか、展示を終わりまで見ていただくことができない場合がある。

・北側に設けられた展示ボードは仮設であり高さがない。そのため、大型作品を展示するには高さの不足や重量の問題があり危険である。展示資料が制限され、展示のコンセプトをよりよく組立てるには不都合である。

・ギャラリーでは、ホール天井の照明が影響し、素描など、支持体が脆弱な作品を展示する際に、必要以上の照度で作品を照らしてしまうという不都合が生じる。また、スポットライトのレールが一列に設置されていないところがあるとともに天井の高さが異なる場所もあるため、作品に均等な美しい光をあてることが難しい区画がある。

・ギャラリーの展示部分はホールという大きな空間の中の通路でもある、温湿度の適正な管理がなされているか未調査であり、監視も配置していない。作品を安全に管理・保存しつつ展示するという、博物館における基本的なことがらについて考慮されることなくこれまで使用されてきたことも問題ではないだろうか。

2-02　地域史関連の研究発表

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　件数の比較では、前年度をやや下回ったものの、文化庁の補助事業を活用した新たな切り口での講演等も実施でき、多くの方々に楽しんでいただけ、学芸員の研究発表活動としての場が拡大し、地域に密着した魅力の発信活動として、より積極的な取り組みができたものと評価できる。

多かれ少なかれ「神戸」という地域について、何らかのきっかけで興味をもってもらうための仕掛けとして、今後とも継続的な取り組みが望まれるところである。特に、リニューアル工事に際しては、館外での仕掛けをうまく展開することに配慮が必要となり、新規の来館者の獲得につながるものと考えられる。

2-02-01　地域史をテーマにした学芸員による発表活動(論文・記事・書籍)は、どのようなものがありましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

（目標は特に設定しない。3月末までに各担当者が活動内容についての活動シートを作成し、それを集計する。）

【全分野における過年度実績】

24年度81件／25年度60件／26年度65件／27年度47件／28年度57件

D実施内容

地域史関連の研究発表 34件

【執筆】　10件

「開国への潮流展」図録、『研究紀要』、『博物館だより』　など

【講演】　24件

・ミュージアム講座（詳細は2-05-01を参照）5件

①「開国への潮流」展をたのしむために／②灘流（丹波杜氏）の秘伝を覗く／④“鯉川筋画廊”と美術家たちー戦前の神戸画壇を振り返るー／⑤「楠木正成」の受容史

・アート・歴史・ファッション　神戸を知る（詳細は3–03–01を参照）1件

全6回の講座のうち、④10月7日　戦国武将と神戸

・学芸員と神戸を巡る（詳細は2–05–02を参照）　5件×2回

Ⅰ手塚治虫ミステリーツアー／Ⅱ川西英の《神戸百景》をたずねて／Ⅲつわものどもが夢のあと―源平合戦の記憶をたどる／Ⅳ古の祈りのかたちー神戸の御仏をたずねて／Ⅴ酒蔵と酒造技術の温故知新

・勤労市民センター連携講座（詳細は2-05-01を参照）　8件

自己評価の詳細 プラス面

・神戸開港150周年にあたり、それに関連した特別展「開国への潮流」展が開催されたこともあり、地域史をテーマにした調査、発表、執筆が行われた。

・平成29年度文化庁補助事業において講演を行い、より多くの市民への情報発信が行われた。

自己評価の詳細 マイナス面

・特別展「開国への潮流」を除き、研究発表と関連した展示が少ない。

・ミュージアム講座のアンケートにて、神戸の歴史をもっと知りたいという意見がいくつかみられた。

2-03　地域史以外の展示

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細・地域史以外の特別展としては「遥かなるルネサンス」「ボストン美術館の至宝展」の２展を開催することができた。「遥かなるルネサンス展」については、目標とする22万人にせまる入館者数を得たものの、本展の企画を行った企画協力者による出品資料の選定・構成や展覧会情報の提供が非常に遅かったために、開催準備にも大幅な遅れと運営上の数多くの不備が生じた。共催のあり方については今後検討が必要である。「ボストン美術館の至宝展」については、巡回館として作品調査や企画等にも積極的にかかわることができた点、東洋・西洋の名品を展示することができ、来館者の満足度も高かった点で評価できるが、入館者数は全く伸び悩んだ。講演会やイブニングレクチャー、子供向け講座など関連事業は通例以上に実施し、新たな広報手段等も模索しており、入館者数が伸び悩んだ要因については今後、検証が必要である。
・地域史以外の企画展示として開催した企画展「絵画と地図に見る日欧交流」は、特別展「開国への潮流」の同時開催。当館を代表する所蔵資料で特別展の前史を紹介する内容だったが、SNSでの評判は、今後の自主企画展の広報のあり方を示唆しているように思われる。
・地域史以外の常設展示では、年間を通じて幅広い分野の資料を展示することができた。リニューアル後は、１階の常設展示・２階のコレクション展示について、それぞれの展示に関するタイムリーな広報活動の充実も望まれる。

2-03-01　特別展「遥かなるルネサンス」はどのように開催しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・本展覧会は東京富士美術館の企画によるものである。これを巡回館として受け入れる当館としての課題は、展覧会が滞りなく開催されることと、神戸会場に訪れる来館者に満足されるような展示、対応、イベントの開催を行うことである。

【予算書想定】
・入館者数：220,000人（有料率68%、149,600人）
・図録購買率：4%
・グッズ単価：150円
・満足度:83以上

D実施内容

特別展「遥かなるルネサンス　天正遣欧少年使節がたどったイタリア」
【会期】
平成29年4月22日～7月17日（月・祝）　75日間
【会場】
特別展示室1・南蛮美術館室・特別展示室2
【主催】
神戸市立博物館、神戸新聞社、MBS、朝日新聞社
【入館料】
当日一般1,300円、大学生900円、高校生700円、小・中学生500円
【入館者数】
201,370人（有料率66.39%、平均2,684人／日、最高8,215人・7月16日）
※目標入館者数220,000人、達成率91%
【図録】
販売冊数3,408冊（購入率1.69%）（目標売上数8,800冊　達成率38%）
【収支バランス】
黒字
【アンケート満足度】
展覧会満足度：82.66　　展示品の質：86.07　スタッフ対応：79.18
【関連事業】
①記念講演会：4月30日「ルネサンスからマニエリスムまで」（岡田温司　京都大学大学院教授）160人／5月14日　「ヨーロッパの知識を日本に伝える－天正遣欧少年使節の背景と意味するもの」（シルヴィオ・ヴィータ　京都外国語大学教授）160人／②コンサート：4月23日「イタリアを訪れた天正遣欧少年使節団と当時の器楽曲」（演奏：アカデミア・デル・リチェルカーレ）160人／③イヴニング・レクチャー：13回　合計1,349名／④子供向けプログラム：5月28日「きみだけの仮面舞踏会マスクをつくってみよう！」17人、6月25日「天正遣欧少年使節を屏風絵にえがいてみよう！」19人、5月5日（金・祝）「こどもの日スペシャル」午前35組・午後21組171人／⑤国際博物館の日：来館者先着100人にポストカード配布。

自己評価の詳細 プラス面

・展覧会の内容（＝ウフィッツィ美術館館長の作品のセレクトおよびコンセプト）に対する高い評価がアンケートにもしばしば見られた。企画を実現させるための資料が国内にわずかであるため、日本で企画することが難しい内容の展覧会であった。
・当館の収蔵品とも関連する内容であり、また、さまざまな観点から展覧会や資料について考えることができる興味深い展覧会となった。
・子供向けプログラム、こどもの日スペシャルについては、通常と同様博物館の企画で充実した内容で開催できた。
・イヴニングレクチャー、ORについて、問題なく対応できた。
・作品保全について問題なく対応できた。

自己評価の詳細 マイナス面

・開催準備期間での企画協力者からの情報提供が遅れたため、図録やキャプションの表記に問題を残したまま開会してしまった。
・解説キャプションと音声ガイドのバランスに考慮が足りない部分もあった。
・企画協力者の方針で図録を通販しなかったが、これに対する苦情もあった。
ビデオコンテンツの公開に関して、そのスペースや機器のスペックに不足な部分があった。
・様々な種類の資料・作品が混在する複雑な展示となり、これに対応できるだけの照明器具が完全には揃えることができず、場所によっては鑑賞しづらい箇所ができてしまった。

2-03-02　特別展「ボストン美術館の至宝展」はどのように開催しましたか？

自己評価　C やや劣る

P課題と目標

・ボストン美術館とそのコレクションの魅力をいかに伝えるか。
・予算書の目標入館者数、有料率、収支達成を目指す。

【予算書想定】
・入館者数：247,000人（有料率75%、185,250人）
・図録購入率：6%
・音声ガイド：利用率17%
・グッズ単価：450円
・満足度:83以上
・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上をはかる。

D実施内容

特別展「ボストン美術館の至宝展―東西の名品、珠玉のコレクション―」
【会期】
平成29年10月28日～平成30年2月4日　83日間
【会場】
特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2
【主催】
神戸市立博物館、朝日新聞社、朝日放送、BS朝日
【入館料】
当日一般1,500円、大学生1,100円、高校生900円、小・中学生600円
【プレミアムフライデーに伴う開館延長】
11月24日・12月22日・1月26日は21時まで開館。
【入館者数】
140,931人（有料率75.6%、106,488人、平均1,697人／日、最高3,752人・2月3日）
※目標入館者数247,000人、達成率57%）
【図録】
販売冊数6,512冊（購入率4.7%、目標売上数14,820冊、達成率43.9%）
【音声ガイド】
利用台数22,553台（利用率16.0%）
【収支バランス】
赤字
【アンケート満足度】
展覧会満足度84.42　展示品の質87.44　スタッフ対応85.41
【関連事業】
①記念講演会：10月28日「ボストン美術館の偉大なコレクターたち」（モーリーン・メルトン　ボストン美術館　図書館・アーカイブ館長）108人／11月18日「ファン・ゴッホによるルーラン夫妻の肖像画について」（大橋菜都子　東京都美術館学芸員）105人／12月16日「皇帝の絵画　ボストン美術館所蔵の中国名画」（板倉聖哲　東京大学東洋文化研究所　教授）93人／12月27日「ボストンのコレクターたちと、ヨーロッパ名画の探求」（フレデリック・イルチマン　ボストン美術館　ヨーロッパ美術部部長）126人／1月13日「コレクターとコレクション―ボストン美術館の日本・中国美術」（石沢俊　当館学芸員）145人
②プレミアムフライデーレクチャー（19時～19時30分）：11月24日68人／12月22日58人／1月26日118人
③イブニングレクチャー：毎週土曜17時～17時30分　全14回、1,459人
④ジュニアミュージアム講座：11月19日「きみはゴッホを超えられるか!?」21人／1月14日「涅槃図にジャンプイン!!」15人／⑤親子鑑賞会：12月3日39組111人／⑥障害者のための鑑賞会：11月13日休館日　124人／⑦プレス内覧会：10月27日41人、12月8日14人

自己評価の詳細 プラス面

・巡回館の一つとして、展覧会企画、現地での作品調査、図録など、本展の企画・構成に積極的に関わることができた。
・ファン・ゴッホの作品だけでなく、東西の名品の数々を楽しめたというアンケートが多く寄せられるなど、来館者の満足度や評価は高かった。

自己評価の詳細 マイナス面

・神戸実行委員会として、広報がうまく機能しなかったことで、想定を大幅に下回る入館者数、収支となった。
・主催各社とも担当者数が多く、担当業務・責任が不明瞭なことも続き、物事がスムーズに進まなかったことがあった。
・会期中、台風や寒気、雪など、厳しい天候が続いたことも来館者数の伸び悩みの一因と考える。
・作品の照度はボストン美術館の条件に従い、作品保存には適切な設定で展示ができたが、一部の来館者（特に高齢者）からは展示室が暗くて作品が見づらいとの意見が寄せられた。
・仮設ケースと仮設壁の設計、強度について、ボストン美術館との調整に時間を要した。経費増、展示スペース減、タイトなスケジュールと大きな課題となったが、各社との協力により展示が実現した。

2-03-03　南蛮美術・古地図企画展はどのように開催しましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・29年度は、九州国立博物館への貸出のため、当館では「聖フランシスコ・ザヴィエル像」・「都の南蛮寺図」が半期展示、「泰西王侯騎馬図」・「四都図・世界図屏風」が非展示となる。そのギャップをどう埋めるか。
・「泰西王侯騎馬図」・「四都図・世界図屏風」が展示される10月からの九州国立博物館での展示について告知すべきかも検討。
・同時開催の「開国への潮流」の前史を紹介する展示としても意識する。
「織田信長像」が修理後はじめて公開されるので、その作業の概略なども紹介する。

D実施内容

南蛮美術・古地図企画展「絵画と地図に見る日欧交流」
【会期】
　平成29年8月5日〜9月24日　44日間
【会場】
　特別展示室1
【出品点数】
　30点（ただし、「聖フランシスコ・ザヴィエル像」と狩野宗秀「都の南蛮寺図」は2週間の展示）
【企画】
・同時開催の特別展「開国への潮流」を意識し、19世紀前半までの日本とヨーロッパの交流に焦点をあてた。／・漠然と美術・古地図を鑑賞する展示ではなく、資料を通じて大航海時代の日欧交流を体感できる構成と解説を導入。
／・各種キャプション類はＡ４サイズを基本とし、読みやすさを優先。／・会期中は展示室内を写真撮影可能とした。／・修理後初公開となる重要文化財「織田信長像」は、2メートル幅の大型解説パネルで、作業の概略と新知見を紹介。／・10月からの九州国立博物館での展示は、当館での展示をネガティブに受け取られる懸念から告知を見送った。／・展示期間に関する情報を早期に収集し、問い合わせには対応した。

自己評価の詳細 プラス面

・今回の展示解説は文章が長めで、専門的な表現も多かったが、判型をA4大に拡大した結果、読みづらい・理解しづらいという苦情はほとんどなかった。「国立博物館よりも解説が充実している」という評価も来館者から頂いた。
・ザヴィエル像、南蛮寺図の展示替えに関する情報もSNSなどで周知した結果、これに対する苦情はほとんど見られなかった。
・SNS上での注目度は高く、特に公式ツイッターでは、同時開催の「開国への潮流」以上のリツイートと「いいね」を獲得することもあった。

自己評価の詳細 マイナス面

・この展示に関する目立った広報活動は行わなかったが、公式ツイッターなどでの関心の高さを活かしたSNS発信を積極的に行うべきだった。
・展示台の劣化や色目の不統一が目立った。
・来館者の声のなかで「織田信長像の修理完了後なぜ迅速に展示できなかったのか」という疑問の声があった。修理完了後に必要な「慣らし期間」についても言及すべきであった。

2-03-04　地域史以外の常設展示はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・常設展示室1：リニューアル後のコレクション展示を見据えて、洋学・対外関係の展示ケースを中心に、定期的な展示替えを実施する。
・びいどろ史料庫展示室：びいどろ史料庫コレクションを紹介するために、定期的な展示替えを実施する。
・みてコレは：常設展示や企画展で展示されにくい資料を展示する機会として、コレクションの展示をする。
・展示替えの際に、広報活動（フェイスブック、ツイッター）を行う。

D実施内容

常設展示は、以下のとおり展示替えを実施した。
【常設展示室1】
　5月19日　海岸の防衛について「海岸備要」など10点。／　6月15日　資料保護のため版画などを入れ替え11点。／　8月2日　漂流民について「漂巽記略」など12点。／　9月7日　資料保護のため版画を入れ替え12点。／　10月6日　幕末の学問について「地理全志」など10点。／　11月17日　資料保護のため版画を入れ替え版本を追加し12点。／　12月15日　江戸時代の地理学について「輿地航海図」など10点。／
【びいどろ史料庫展示室】
　6月6日　和ガラスとヴェネチアン・グラス／　9月14日　近代大阪の和ガラス／　1月4日　近代和ガラスを彩る装飾技法／
【「みてコレ（地域史以外）」】
　5月30日　三代黒川亀玉／　7月22日　青銅鏡／　9月5日　大港横濱乃図／
【広報活動（公式フェイスブック）】
　4月22日　びいどろ史料庫コレクション室展示替えのお知らせ／　7月22日　「卑弥呼の授かった鏡はどれ？」　“みてコレ”展示替え／　9月23日　びいどろ史料庫コレクションの展示替のお知らせ

自己評価の詳細 プラス面

・常設展示室1は、おおよそ1ヶ月半ごとに展示替えを実施することができている。
・びいどろ史料庫展示室は、おおよそ3ヶ月ごとに展示替えを実施されている。
・びいどろ史料庫展示室、「みてコレ」7月22日（土）〜青銅鏡の展示替えについて、フェイスブック、ツイッターによる広報活動が行われた。
・みてコレは、日本美術や青銅鏡、都市図といった常設展や企画展で展示されていないコレクションの一部を展示することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・常設展示室1は、7月に展示替えができなかった。
・びいどろ史料庫展示室、みてコレ青銅鏡以外の展示替えでは、広報活動（特にSNS）ができていない。

2-04　地域史以外の研究発表

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　継続的な学芸員の活動として、積極的に取り組めている。展覧会に関連する内容にとどまるのではなく、館蔵資料の地道な調査研究・紹介とともに、博物館活動として十分にアピールできていると評価できる。今後とも継続的な取り組みにより、博物館活動の発信が強く望まれる。

2-04-01　地域史以外をテーマにした学芸員による発表活動(論文・記事・書籍)は、どのようなものがありましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・各学芸員が活動シートを作成し、年度末に集計する。

【28年度実績】
全分野で57件の研究成果を発信。

D実施内容

29年度：全47件
【講演】　17件
・特別展関連3件
・勤労市民センターとの連携事業6件（館蔵品紹介が中心。地域史関連は含まない）　など
【発表】　4件
・学会発表を含む
【執筆】　26件
・『研究紀要』、『博物館だより』など
【平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業】
・シンポジウム「神戸開港と港の近代化」（特別展「開国への潮流」関連事業として開催）報告書刊行。
・神戸松蔭女子学院大学と連携協定事業の報告書『明治時代の洋菓子再現』、『明治の錦絵をもとにした同時代の衣装イメージの再現制作』刊行。

自己評価の詳細 プラス面

・特別展、自主企画展の関連事業において、神戸市内各所で講演を実施、展覧会の広報、及び市民に向けて博物館の活動を知っていただく機会となった。
・発表、執筆では、館蔵品を取り上げた事例も含まれる。学芸員の館蔵品の理解の深化とともに、多くの方にその情報を提供できた。
・自主企画展関連シンポジウム報告書を含む、平成29年度文化庁補助事業において刊行物を発行し、多くの人びとに博物館の活動を発信した。

自己評価の詳細 マイナス面

・展示室の環境も考慮しなければならないが、研究発表の内容を反映した展示内容はほぼ実施できなかった。ある程度の研究蓄積は必要であるが、リニューアル後は、コレクション展示室を新設予定であるため、日頃の研究成果を積極的に展示に活かすことも必要と考える。

2-05　普及活動

評価　S 特に優れている

評価の詳細・「ミュージアム講座」や「講座 博物館を楽しむ」など、従来の講座に加え、特別展に関連した講演会やイブニングレクチャー、連携協定を結ぶ勤労市民センターとの共催講座、婦人大学など地域の団体からの要請に基づく講座、文化庁補助事業として実施した連続講演会「神戸を知る」など、例年以上に質・量ともに充実した講演会を実施することができた。
・講演会以外にも博物館たんけん隊や歴史たんけん隊、土器づくり教室などの従来の講座、展覧会の関連企画として実施したコンサートやワークショップ、親子鑑賞会、障がい者のための鑑賞会、学習支援交流員による各種体験講座など、質・量ともに充実した博物館オリジナルの事業を実施できている。また、29年度は文化庁補助事業において、新しい試みとして、事前学習と現地見学を融合した講座「学芸員と神戸をめぐる」や、水墨画や浮世絵などの日本文化を外国人に伝える体験型ワークショップも実施することができた点は高く評価できる。文化庁補助事業に関しては、申請段階において十分な検討ができなかったために、各事業の準備を進める中で、実行委員会を組む連携館との共通認識が形成されていないなどの問題も見られた。次年度の検討課題である。

2-05-01　学芸員によるミュージアム講座や展覧会関係の講演、外部会場での講演などはどのようなものがありましたか？　自己評価　S 特に優れている

P課題と目標

・ミュージアム講座、博物館をたのしむ、特別展関連の記念講演会を実施する。充実した内容の講座を計画し、広く広報をおこない、円滑な運営を実施し、高い満足度を目指す。

【前年度実績】
「ミュージアム講座」計776人 ／「博物館をたのしむ」計26人

D実施内容

【博物館をたのしむ】のべ参加数39人
6月9日「聖フランシスコ・ザヴィエル像とキリシタン遺物」13人／6月16日「中世の古文書に親しむ」10人／6月23日「江戸時代の日本地図を眺めてみれば．．．」13人
【ミュージアム講座】のべ参加数 794人
9月21日「開国への潮流展をたのしむために」157人／10月19日「灘流（丹波杜氏）の秘伝を覗く」123人／11月16日「ボストン美術館の至宝―偉大なるコレクターとコレクション」138人／12月21日「“鯉川筋画廊”と美術家たち―戦前の神戸画壇を振り返る―」133人／1月18日「「楠木正成」の受容史」128人／2月1日「江戸時代の日本図」115人
【展覧会関連事業：講演会、解説会、ギャラリートーク、障害者のための鑑賞会など】
・「古代ギリシャ」展（28年度より継続開催）：イブニングレクチャー　会期中の毎土曜日計1回 参加者165人
・29年度の展覧会関連事業：各展覧会の評価シートを参照。
【勤労市民センター（神戸いきいき勤労財団との連携協定）】のべ参加数694人
6月3日「遥かなるルネサンス天正遣欧少年使節がたどったイタリア　展覧会を楽しむための講座」85人／9月2日「開国への潮流―開港前夜の兵庫と神戸―展覧会を楽しむための講座」80人／9月2日「神戸開港150年記念講演会」40人／9月22日「江戸時代花鳥画の魅力」20人／10月7日「開港前夜―黒船の来航と大坂奉行－」参加者44人／11月11日「神戸のカミとホトケ―顕現する神秘の世界―」34人／11月12日「長田の歴史探訪 830年の時空を超えて」44人／11月25日「豊臣秀吉と有馬」44人／11月30日「和ガラスに親しむ」19人／1月27日「日本の聖地をめぐる　一遍上人絵伝の世界」56人／12月2日「ボストン美術館　東西の名品　珠玉のコレクション　展覧会を楽しむための講座」70人／1月27日「神戸の中世城郭探訪」37人／1月31日「垂水の古墳」27人／2月12日「チョコレートで作る卑弥呼の鏡」7組
【婦人大学】
11月29日「ボストン美術館　東西の名品　珠玉のコレクション」40人／1月31日「神戸の寺院と仏像」40人
【文化庁補助事業　アート　歴史　ファッション　神戸を知る】
計６回開催のうち、当館学芸員は10月7日「戦国武将と神戸」67人

自己評価の詳細 プラス面

・従来の講演・講座に加え、文化庁補助事業による「神戸を知る」講演会やプレミアムレクチャーの開始によって、例年にも増して質・量ともに充実した講演会を開催できた。

【博物館をたのしむ】
・実際に資料を間近に体感することによって、歴史や文化への理解が深まった。
【ミュージアム講座】
・日頃の学芸員の調査・研究活動を講演にというかたちで深く、広く発信できた。
・定員を超える応募を得、出席率も高かった。

【特別展関係講演】
・展覧会のテーマ、出品作品に関る専門家による講演で満足度が高かった。
・イブニングレクチャーは、土曜日のイベントとして定着し、多くの参加者を得た。また、今年度はボストン美術館展開催中にプレミアムレクチャーを開催し、さらなる発信につとめた点が評価できる。

【勤労市民センター、婦人大学講演会】
・特別展及び各学芸員の専門性にあわせて多様な講座を展開することができ、高い満足度を得た。
・各区の地域に連携した話は地域の魅力を再確認する機会ともなっている。

自己評価の詳細 マイナス面

【博物館をたのしむ】
・平日開催のため、高齢者の参加が多い。幅広い年齢層の参加を求めるならば土曜、日曜の開催も検討する必要がある。

【ミュージアム講座】
・「たのしむ」同様、平日開催のため、高齢者のリピーターが多い。この点は改善を検討する必要がある。
・受付時間前に待ち列が発生し、不満が出ている。何らかの改善策を講じたい。

【特別展関係講演】
・幅広い聴衆に理解できるような内容の講演会とするため、可能なかぎり事前に講師と打合せを行う必要がある。
・整理券配布時間前に定員に達する講演会がある。この際の対応についてさらなる改善を検討していく。

【勤労市民センター、婦人大学講演会】
・場所によっては、講座開始前に講師が準備をするスペースがない場所がある。この点、開催場所と調整し改善していく必要がある。

2-05-02　講演以外の普及活動(ワークショップ型・ツアー型)にはどのように行いましたか？

自己評価　S 特に優れている

P課題と目標

博物館の資料などについてより深く知り、楽しんでいただくための方向を示唆することができるような内容の普及事業を開催する。

D実施内容

【展覧会関連】

・各展覧会の評価シートを参照。

【展覧会関連以外】

・子供向け事業：

評価シート「3-02-05」参照。

・一般向け事業：

9月30日「大人のための浮世絵摺り入門講座」14人／2月12日「チョコレートでつくる卑弥呼の鏡」7組15人

【学習支援交流員によるワークショップ】

・評価シート「3-01-01」参照。

【文化庁補助事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」】

①「学芸員と神戸を巡る（事前学習と現地見学バスツアーの2日間）」：8月12日〔ツアーのみ〕「手塚治虫ミステリーツアー」18人／9月10日、9月24日「川西英の《神戸百景》をたずねて」事前学習15人、現地見学15人／10月15日、10月29日「つわものどもが夢のあと―源平合戦の記憶をたどる」事前学習16人、現地見学16人／11月５日、11月26日「古の祈りのかたち―神戸の御仏をたずねて」事前学習19人、現地見学20人／12月10日、12月24日「酒蔵と酒造技術の温故知新」事前学習17人、現地見学13名

②「外国人のための日本文化を知るワークショップ」：12月2日「水墨画」14人／12月9日「掛軸の裏打ち」22人／年1月21日「浮世絵」19人

【移動博物館車「おきしお夢はこぶ号」の活動】

・学校15校、地域イベント6ヶ所

自己評価の詳細 プラス面

・コンセプトから実施まで、当館のオリジナル事業であり、各学芸員の工夫がうかがうことができ、内容及び回数が豊富である。

自己評価の詳細 マイナス面

・文化庁の補助実施事業については、それぞれの実施に至るまでに、内容について十分に検討されることなくなされるものがある。特に他館、大学との事業については、先方任せになっていたことがあった。

2-06　特別利用・館外貸出

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　館外資料貸出は、リニューアル休館を控えていたため、件数がやや減少した。各館に対して事前に貸出の一時休止を告知していたことが一因となった可能性が指摘できる。その一方で、貸し出し休止の周知が不足していたためか、資料借用の打診が依然として続き、それらのご要望には対応できない結果となった点が反省点として指摘できる。

画像利用では、前年度を上回る実績があり、館蔵する資料の画像の活用需要が継続していることを裏付けている。また、外部委託している画像提供業務は、昨年度と近似する画像利用料の実績があり、利用料の一部を資料購入費として充当する市民文化振興基金に繰り入れすることができた点が大きな成果として評価でき、今後の継続が期待される。

2-06-01　特別利用・画像利用・画像提供の利用状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【特別利用】
・申請に対する許可手続きを円滑に行い、申請者とスムーズなやりとりを図る。

【画像利用】
・申込に対する承諾手続きを円滑に行い、申込者とスムーズなやりとりを図る。

【画像提供】
・委託先（DNPアートコミュニケーションズ）からの追加画像依頼に対して、円滑に対応する。
・利用料収入をもとに、アーカイブの拡充を進める。

D実施内容

【特別利用】
・申請48件、716点
　熟覧　45件693点
　撮影　46件715点
　館外貸出　17件63点
【画像利用】
・申込196件、677点
【画像提供】
・申込593件
・利用料収入をもとに、資料の新規撮影を実施。

自己評価の詳細 プラス面

・特別利用に関しては、申請に対して適切な手続きが行われた。
・画像利用に関しては、28年度（182件527点）と比して、利用件数・点数とも増えた。
・外部委託である画像提供業務に関しては、平成26年下半期からの導入以来、利用料収入をもとに館蔵資料の新規撮影などを行うことで、アーカイブの拡充に努めてきた。
・今年度より画像利用料の一部を、資料購入費として基金への繰り入れを開始した。

自己評価の詳細 マイナス面

・リニューアル休館のため、館外貸出を一時停止するため、例年に比べて、館外貸出件数が少なくなった。
・館外貸出の一時停止について、事前案内が十分には行えておらず、締切以降も貸出打診が続いた。

2-06-02　博物館資料の館外貸出の状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・他館との調整、事務手続きをスムーズに行う。
・資料の調書の書式を統一し、館で共有できるような体制を構築する。

【28年度実績】
29ヶ所　170点

D実施内容

平成29年度の貸し出し：18ヶ所　137点
指定品の貸出は、下記のとおり。
・兵庫県立考古博物館
　開館10周年特別展「青銅の鐸と武器―弥生時代の交流―」（9月23日～12月10日）
　国宝「桜ヶ丘3号銅鐸」1点、国宝「桜ヶ丘1号銅戈」、国宝「桜ヶ丘2号銅戈」
・あべのハルカス美術館
　大英博物館国際共同プロジェクト「北斎―富士を越えて―」（10月6日～11月19日）
　重要文化財　司馬江漢筆「相州鎌倉七里浜図」
・九州国立博物館
　特別展「新桃山展―大航海時代の日本美術」（10月14日～11月26日）
　重要文化財「聖フランシスコ・ザヴィエル像」、重要文化財「泰西王侯騎馬図」、重要文化財「四都図・世界図屏風」
・京都国立博物館
　「国宝」展（10月24日～11月26日）
　国宝「桜ヶ丘4号銅鐸」1点、国宝「桜ヶ丘5号銅鐸」
・兵庫県立歴史博物館
　特別展「ひょうごと秀吉―近年の新紹介資料を交えて」（10月７日～11月26日）
　神戸市指定文化財「南蛮人文桜花蒔絵鞍」
　兵庫県指定文化財「天正七年制札」、同「天正八年制札」（寄託品）

自己評価の詳細 プラス面

・リニューアル工事期間にかかる貸出停止のため、28年度に比べて貸出箇所、貸出資料ともに減となった。
・関西だけでなく、関東、東海、中国、九州と、館蔵品をさまざまな地域の方に、ご覧いただく機会を提供できた。

自己評価の詳細 マイナス面

・資料の調書の書式統一を確立できておらず、資料の情報を共有することが難しい。
・前任者の情報が引き継がれていない資料が多い。
・貸出時の規定が設けられていない。

2-07　情報・コンテンツの発信

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細・広報活動については、博物館だよりの制作、展覧会ポスター・チラシの送付、無料広報媒体への情報提供、取材対応等、遅滞なく適宜実施・対応することが出来ている。ただし、発行部数や仕様書（デジタル印刷時代に即したもの）の見直しなどの課題も見えてきている。口コミサイト等の誤記載等については全てをチェックすることは難しいため、発見次第、適切に訂正を求めていくしかない。
・ホームページへのアクセスは例年並みと考えられるが、2月・3月がリニューアル休館となり、相応にアクセスが低下している。休館中に博物館の存在が忘れられないよう、HPやSNSでの情報発信に絶え間ない注意と努力が必要である。
・SNSについては、フェスブックが約400、ツイッターが約1200、前年比でフォロワー数の増加が見られた。投稿総数よりは、投稿の効率性が求められるが、イベント終了後からかなり時間を経て記事が投稿された例があり、本来の即時性を活かした情報発信を実現することが望まれる。

2-07-01　出版物（紀要・年報・目録他）はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・平成28年度の活動をまとめた年報を博物館ホームページ上で公開する。
・今年度の紀要、目録を刊行する。

D実施内容
【年報】
例年通り8月に当館ホームページにてPDFとして公開した。
【紀要・目録】
30年3月27日：納品、31日発行。
※紀要の内容は、下記のとおり
【紀要の内容】
・塚原晃「長崎版画としての《姑蘇石湖倣西湖勝景》」
・三好俊「中世争乱の舞台としての有馬－落葉山城を中心に」
・石沢俊「〈修理報告〉重要文化財　絹本著色織田信長像」
【目録の内容】30年3月31日発行
・「考古・歴史の部」34　摂津国八部郡花熊村文書
・「美術の部」34　　浮世絵版画　総インデックス７

自己評価の詳細 プラス面
・年報の公開、及び紀要、年報を計画通りに作成した。
・紀要については、今年度から要約（日・英）を付して、海外への情報発信も行なえるように取り組んだ。

自己評価の詳細 マイナス面
・紀要の執筆規定を仮に設定したものの、資料名、年号、註の表記など分野によって認識に違いがあり、今後は執筆要項の整備が必要と思われる事項が多くあった。また英文要約における文体や仕様の統一も次年度への課題である。
・年報と自己点検評価との整合性を確保するのに手間取った。

2-07-02　公式HPでの情報・コンテンツ発信はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・最低限必要なHP更新について、早期に割り出して、計画化すること(5月中)。
・3月までびいどろ史料庫の資料を1,000件単位で文化遺産オンラインに公開

D実施内容
【公開したコンテンツ】
・展覧会情報、普及事業の案内
【トップページのアクセス数】
・578,213（3月31日現在）　※28年度：690,214
※リニューアル休館により、当館HPのアクセス数が2月以降大幅に減少（1月：62,422、2月：27,642、3月：23,279）
【所蔵品公開件数】
・当館ホームページ名品撰：233件
・文化遺産オンライン：1,243件
・Google Arts and Culture：129件
【本年度で際立ったコンテンツ】
・遥かなるルネサンス展のアクセス数が突出して多かった。

【びいどろ史料庫コレクションのWEB公開】
・画像、テキストの準備を進めたが、文化遺産オンライン等での公開には至らなかった。

自己評価の詳細 プラス面
・市民から最もアクセスの多い展覧会情報については、開幕1～2ヶ月前には展覧会ページを設けて、情報の発信に努めた。

自己評価の詳細 マイナス面
・びいどろ史料庫コレクションの公開が実現できなかった。
・リニューアル休館に伴い、博物館HPへのアクセスが1/3程度まで減少している。

2-07-03　SNSではどのように情報発信を行い、どのような反響を得られましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・各展覧会でのフェイスブック投稿の計画化。

【前年度実績】

・フェイスブック：投稿185件、リーチ252,345回、フォロワー2,682人。

・ツイッター：投稿334件、インプレッション1,150,324件、フォロワー7,005人。

D実施内容

【フェイスブック】（3月13日時点）

・フォロワー3,044人／投稿数　136件／平均リーチ数　1,426リーチ

・リーチ数が多かった投稿：

4月21日「遥かなるルネサンス開会式」5,957／4月20日「遥かなるルネサンスいよいよ開幕」4,980／11月14日「ボストン展関西文化の日」4,496／1月31日「リニューアル」4,457／2月14日「居留地たんけん」3,827／

・展覧会ごとのフェイスブック投稿回数：

「遥かなるルネサンス」23回（75日間）／「開国への潮流」24回（44日間）（企画展含む）／「ボストン美術館の至宝展」28回（83日間）

【ツイッター】（平成30年3月13日時点）

・投稿数　140件／インプレッション　1,035,128件／フォロワー　8,226人

・特にいいね数が多かった投稿：

9月14日「織田信長像修理」112／12月7日「ボストン展戌年へ」 88／1月31日「リニューアルらせん階段」82／5月17日「ルネサンス展神戸限定出品」81／2月13日「三角縁神獣鏡チョコ」76

自己評価の詳細 プラス面

・「遥かなるルネサンス」では3.2日に1度、「開国への潮流」では1.8日に1度、「ボストン美術館の至宝展」では2.9日に1度のペースでフェイスブックの投稿が行なわれた。

・イベントや講座などの事業ごとに告知、報告のSNS投稿が行われた。

・「開国への潮流（企画展含む）」では、ＳＮＳ投稿計画が策定され、計画通りに実施された。

・フェイスブック、ツイッターともにフォロワーが増加傾向にある。

自己評価の詳細 マイナス面

・フェイスブック、ツイッターともに昨年度に比べて投稿数が減少している。特にツイッターの投稿数は半減しており、インプレッション数も減少している。

・事業後のSNS投稿について、事業終了から5日以上経過してから投稿されたものがある。

・計画的な情報発信までには至らなかった。

2-07-04　広報活動はどのように行いましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・博物館だよりを秋、春2回発行する。
・展覧会や事業に関る資料提供を適当な時期に遅滞なくおこない、情報発信に努める。
取材申込みに対して適切対応し、情報発信に努める。
広報誌など紙媒体のツールも利用し情報発信に努める。

D実施内容

【年間スケジュール】
　平成30年度がリニューアル休館期間となるため、発行せず。
【博物館だより】
・No.112(2017秋)　8月24日発行　発行部数8,000部
・No.113(2018春)　3月23日発行　発行部数5,000部
【展覧会ポスター・チラシの送付】
・「開国への潮流」：6月27日1944件に発送
・「ボストン美術館の至宝展」：9月26日2862件に発送
　※各展覧会で、三宮総合インフォメーションセンターなどに100～1,000枚を設置。
【展覧会の招待状送付】
・「開国への潮流」1278件に送付
・「ボストン美術館の至宝展」：1277件に送付
【広報誌など掲載】
・展覧会情報の掲載依頼は、広報事務局に対応を依頼し、広報用画像やチケットの提供を逐次実施。ただし、「開国への潮流」は、博物館で対応し、27件の広報申込を受付。
・神戸市の広報媒体
　「あじさい通信」：7回、展覧会情報を掲載
　「教育委員会だより」：4回、展覧会情報を掲載
　「広報紙KOBE」：7回、講演会などの展覧会関係行事や子供向けイベントの情報を掲載
　「KOBE Today」に「開国への潮流」の情報を掲載
・外部の媒体における定期掲載
　「【g-time】」（神戸のフリーペーパー）：３回、展覧会やイベントの情報を掲載
　「KOBE C情報」：10回、展覧会情報を掲載
　「新美術新聞／美術の窓」：毎月、展覧会スケジュールの照会に回答
　「Sato-Net」（郷の音ホール情報紙）：6回、展覧会情報を掲載
　※アートウォーク、日本博物館協会、兵庫県博物館協会、せとうち美術館ネットワークにも参加し、ホームページへの掲載や、ガイドブック製作・配布に対応した。
　※その他ガイドブックなど単発の掲載情報提供、校正依頼への対応：80件
【取材対応】
　記者資料提供：17件
　取材申し込み（常設・特別展）：17件

自己評価の詳細 プラス面

・博物館だより：
例年通り、秋・春の年2回、遅れることなく発行・配布することができた。リニューアル工事に伴い、展覧会情報が掲載できなくなることに代えて、リニューアルに関する情報や普及事業の報告などを充実させ、積極的に情報発信をすることができた。

・展覧会ポスター・チラシの送付、展覧会の招待状送付
展覧会開催の約1ヶ月前から遅れることなく、発送作業を行い、展覧会を周知することができた。

・広報誌など掲載
無償で利用できる広報媒体について積極的に活用し、展覧会やイベントの情報を発信することができた。照会や校正依頼に対して、遅れることなく迅速な対応ができた。「ボストン美術館の至宝展」終了後は、リニューアル休館期間の掲載と旧情報の削除という対応を随時行っている。

・取材対応
依頼に対して、博物館や展覧会の広報に繋がるものについて適宜対応することができた。展覧会以外にもイベントに関する記者資料提供を積極的に行い、取材申し込みにつなげることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・博物館だより
全市を対象とした印刷物の部数見直し、電子化への対応として、発行部数を抑えた結果、館内配布分が少なくなり、展覧会が会期末に近付くにつれ、設置場所と部数を縮小せざるを得なくなった。それに対する不満の声も出た。発行部数を再度見直す必要がある。
印刷物作成技術が進歩していることに対し、旧来の仕様書を踏襲していたことで、結果品質が劣る仕上がりとなることがあった。

・展覧会ポスター・チラシの送付
印刷物送付の際に同封した招待券が転売されていることに対する苦情があった。

・広報誌など掲載
不特定多数が編集可能な口コミサイトなどで、博物館について誤った情報が掲載されているケースがあったが、編集のためのアカウント取得を求められたり、サイト責任者の連絡先が明記されていなかったりと、修正のために多くの時間や作業量を要した。

2-08　展示関係のリニューアル

評価　A 優れている

評価の詳細　限られた面積・予算の中では、理想的な展示展開には到底及ばないものの、一定の課題を克服しながら、基本計画に掲げた目標を十分に達成することが可能な内容の詳細実施設計を作り上げることができた。

常設展示となる１階の「神戸の歴史」では、特に一定の空間での集約化を図ったことにより、実物資料の展示点数に制約が生じていることは否めない。グラフィック、模型、デジタルコンテンツの活用により、効果的な展示空間の構成が望まれる。フロアの無料開放に向けた多角的な視野での取り組みも必要となろう。

２階のコレクション展示では、桜ヶ丘銅鐸やザビエル像に特化した空間の演出が可能となったことに加え、美術・古地図・びいどろなどの資料が多角的に展開できる展示空間が形成できた。地域文化財室の展示内容を含めたコレクション歴史展示あるいはコレクション特集展示での館蔵資料の活用を中長期的な視野からも十分に検討し、準備していく必要がある。

2-08-01　1階 神戸の歴史展示の設計はどのようなものになりましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

・交流を中心とした神戸の歴史を伝えることのできる展示設計を行う。
・大人から子供まで楽しむことのできる分かりやすい展示を設計する。
・新たな歴史展示での活用を見据えた、資料収集、複製製作を行う。
・歴史展示、地域文化財展示室における展示計画の充実を目指し、館内外での調査、研究を進める。

D実施内容

【設計工程】
・リニューアル展示設計の受託事業者である（株）丹青社と、展示シナリオ・主な展示資料について協議。
・8月31日に展示詳細設計図書納品。
・恒常的に神戸の歴史について学べる展示空間とするため、定期的な展示替えが想定される実物資料の他に、グラフィックや映像コンテンツ、模型の製作についても、予算調整を図りながら進めた。

【時代区分・テーマ設定】
・歴史展示における時代区分ごとに、以下の通りテーマを設定し、方向性を固めた。
［古代］
古くより交通の要衝であった神戸について、実物資料・遺跡の発掘写真を用いて紹介。市内の代表的遺跡である五色塚古墳を模型と実物資料を用いて、わかりやすく伝える。
［中世］
港の発展に焦点を当て、平清盛の大輪田泊整備から、室町将軍家による兵庫津における日明貿易など、国際港としての発展を資料・グラフィックを用いて紹介。兵庫津に設けられた関での活動や、交通の要衝としてさまざまな人々が行き交うことで定着をみた文化や宗教の様子も紹介。
［近世］
戦国武将たちの町の整備から幕府領となる兵庫津が、国内流通の拠点として発展していく様子と、そこで活動した商人等の庶民の活動を絵図や模型・グラフィックを用いて紹介。さらに日本の開国に伴い、開港場に選ばれた神戸がどのように国際港として整備されていったかを、古文書や絵図・古写真を用い紹介。
［近代］
神戸開港により設けられた外国人居留地について、従来の旧外国人居留地模型と新規製作の模型・グラフィックを組み合わせた展示を中心に、外国人関係の実物資料と合わせて紹介。館蔵の古写真や絵葉書を用いて、明治～昭和の神戸の景観を復元するほか、生活用具や引札・ポスターから人々のくらしの移り変わりについて解説する。従来は紹介しきれていなかった、水害や戦争・震災といった神戸を襲った災害とそこからの復興に関する資料を展示に取り入れる。

【市内の寺社・史跡調査】
・広く神戸市内の歴史を学び、体感する展示を構成する上での素材収集を目的として、5月11日に丹青社・博物館の担当者で、北区と西区の寺社や史跡を調査。
　※調査先：石峯寺・歳田神社・淡河八幡神社・無動寺・若王寺神社・六條八幡宮・七社神社・下谷上農村歌舞伎舞台・内田家住宅・太山寺など。
・地域文化財展示室も含めた歴史展示での活用を見越して、館蔵資料の調査・整理、資料の受入を随時行った。（平成29年度の資料受入については、1-04-01「資料受入」の項目を参照）また、歴史展示での活用を目的に、「神戸外国人居留地計画図（神戸市指定有形文化財）」の複製を製作した。

自己評価の詳細 プラス面

・今回のリニューアルにおける使命の一つである、歴史展示の刷新について、委託業者と定期的に協議を進めることで、イメージを具体化することができた。
・館蔵資料の総合調査や、「開国への潮流」展の調査・研究を行う中で、歴史展示での活用を見込める成果を蓄積できた。
・歴史展示での活用に向けた資料購入のほか、「神戸外国人居留地計画図」の複製製作を行った。

自己評価の詳細 マイナス面

・限りあるリニューアル全体の予算を鑑み、主にグラフィックや模型製作について、当初の計画より大幅に縮小せざるを得なかった。
・キャプションの内容や、展示替えの予定など、詳細な部分については担当者間で協議をする時間が十分にとれていない。

2-08-02　2階 コレクション展示の設計はどのようなものになりましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・指定品展示を前提とした展示室設計を文化庁、東京文化財研究所と協議のうえ、適切に進めていく。
・リニューアル後、向こう1年間を目途とした展示計画を各室担当者が立案し、展示資料、展示替え時期などの共有をはかる。必要な展示台、演示具、キャプション等の準備を進める。
・見せる展示の美しさだけでなく、資料の安全性も留意した展示設計を進める。

D実施内容

【設計工程】
・委託業者である（株）丹青社と協議の上、工程通り進捗。
・8月31に展示詳細設計図書納品。

【公開承認施設としての手続き】
・逐次、文化庁・東京文化財研究所と協議の上、指導・助言を得て、設計に反映。
・設計図書完成後、公開承認施設にかかる改修申請を1月5日付で文化庁へ提出。2月5日付で承認。

【設計詳細】
・①桜ヶ丘銅鐸・銅戈、②ザビエル、③特集展示（美術・古地図併用）、④びいどろ・ぎやまん、⑤歴史の全5室。
・各室の展示構成、展示ケース、展示室、主な展示資料について、検討を重ね、設計図書に反映。
［桜ヶ丘銅鐸・銅戈展示室］
・国宝の実物資料展示、とりわけ絵画銅鐸（4号・5号）を360度から鑑賞できるのを特色とする。そのほか、壁面グラフィックによる桜ヶ丘銅鐸の紹介、映像による「桜ヶ丘銅鐸の謎」「銅鐸のつくりかた」を紹介予定。
［ザビエルルーム］
・「聖フランシスコ・ザヴィエル像」の実物展示（年2回、60日以内）をはじめ、関連する初期洋風画やキリシタン資料を展示予定。そのほか、壁面グラフィックでザビエルの年表と書簡に残る彼の言葉を紹介。映像では「ザビエルの生涯」「世界のザビエル像」「ザビエルの言葉」を紹介予定。
［特集展示室］
・2つの壁面固定ケースや可動ケースを活用して、美術・古地図のコレクションを適宜紹介していく。美術・古地図でそれぞれ1つの固定ケースを使用するのを基本とするが、展示計画・テーマにあわせて1室を美術・古地図・その他コレクションの特集展示に使用することも想定している。
［展示ケース］
・いずれも高透過ガラス、低反射フィルム貼りでLED照明。
・免震／非免震、エアタイト／ノンエアタイトは、展示室により仕様が異なる。
・銅鐸：免震・エアタイトケース
・銅戈：非免震・エアタイトケース
・ザビエル：非免震・エアタイトケース
・特集展示室の固定及び可動ケース：非免震・ノンエアタイトケース
・びいどろ・ぎやまん：免震・エアタイトケース
・歴史：非免震・ノンエアタイトケース
［キャプション・演示具］
・仕様・デザインを協議の上、設計を進めた。

自己評価の詳細 プラス面

・リニューアルの大きな目的のひとつであるコレクションの常時展示にふさわしい適切な設計を進めることが出来た。
・国指定品展示、公開承認施設など、文化庁の求める水準をクリアした設計を作成することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・新規建築する博物館ではないため、既存の空間のなかでコレクション展示を展開しなければならず、各展示室とも十分な広さを確保できてはいない。
【リニューアル後の展示計画】
・十分な検討ができなかった。

2-09　情報・図書関係のリニューアル

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　リニューアル工事の準備作業として、図書の配架替えに伴う図書の分別整理と廃棄を精力的に実施した。限られたスペースを有効に利用するための方策として有効であったと考えられる。

リニューアル再開までには、ライブラリーカフェ・情報センター・体験学習室の各所に配架する図書の選別・配架作業が必要となる。今後の図書受入の対応を十分に配慮しながら、方向性を模索していかねばならないだろう。

なお、情報センターでも図書が閲覧できることはもちろんであるが、データベースと連動していく収蔵作品の公開システムの構築が喫緊の課題となっている。数量的にどこまでの資料を取り扱うのが適当なのか、どこまでなら対応していけるのか、いまだ不透明な点が多々あるものの、現状では高望みせずに、まずは観覧者にとって楽しんでいただけるものとなることを期待したい。

2-09-01　情報発信関係の設計はどのようなものになりましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・3月までに新規公開作品の選定を完了。情報センターなどで公開する資料作品選定の完了

・3月までに各分野の分類法制定を完了

D実施内容

・優先的に公開をすべき候補資料（総合資料調査によって選定）：1,237件（3月31日時点）

・当館の主要な所蔵品として位置付ける。

・休館中に文字情報入力と写真撮影を経て、公開用データベースの充実へとつなげていく。

【情報センター】

・上記のすべてを検索できることをめざす。

・検索端末のソフトウエア仕様：未確定

・30年度の展示製作業務が開始するまでに分類法とフィールド構成を確定し、ソフトウエアの設計が進められるように、現在は分類法の策定を各分野の担当者が検討中。

・大枠としては「地域資料区分」「分野区分」の二つの分類フィールドを新設。地域資料でも、それ以外の資料でも円滑に検索できる仕組みを目指す。

・神戸市内の地域別で写真・絵画などを検索できる「神戸景観データベース」の概念についても学芸員間で共通認識が醸成されつつある。歴史資料では、その地域性と分野性との関連にどのような整合性を持たせるかという課題が残されている。美術分野では池長孟コレクション以外の作品においても、これを踏襲した分類を継承すべきかどうか、検討中。

・インターネットへのデータベース公開のためのシステム構築は断念したが、「文化遺産オンライン」の活用を検討することになった。

自己評価の詳細 プラス面

・リニューアル後に情報センターなどで公開すべき作品・資料の候補が1,200件以上見出すことができた。

・びいどろ史料庫の作品情報も画像データベース化が完了し、情報公開への態勢が整った。

・データベース分類法の策定で「地域資料区分」「分野区分」を加えることで共通認識が出来上がりつつある。

・リニューアル展示の情報公開の中心となる「神戸景観データベース」への共通認識が醸成された。

自己評価の詳細 マイナス面

・分類法の策定が29年度中に完成しなかった。

・外部へのデータベース公開は見送られ、現状ではリニューアル後は情報センターのみに限定されていること。

2-09-02　リニューアルを見据えた図書の整理はどのように行われましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・リニューアル後の活動をふまえた図書の受入・廃棄方針を定める。
・上記方針に則り、適切に受入を進め、9月中を目途に廃棄候補図書をまとめる。
・情報センター、体験学習室に配架する図書候補をまとめる。

D実施内容

【収蔵庫9】
・近・現代美術（工芸関係を除く）に関する図書：小磯記念美術館へ移管。
・使用頻度の低い図書、重複本を廃棄。
・配架スペースを整理し、2F文献室から一部の図書を移動し、配架。
【2F文献室】
・博物館施設ガイド、図版入り館蔵品目録などを収蔵庫9へ移動。
・年報、広報誌などの使用頻度の低い図書を廃棄。
【2F図書室】
・配架図書の移動を実施。
・今後活用の見込みのない図書は市立図書館への移管及び廃棄手続きを実施。
・リニューアル後の配架場所（情報センター、体験学習室、収蔵庫9）を確認し、ダンボール箱に収納。
・リニューアル工事範囲外スペースに仮置き。
・配架棚は、3階旧ボランティア室、保健室などに配架。
【収蔵庫6】
・利用頻度の低い過去の雑誌を廃棄。
【考古分野の報告書など】
・受け入れ方法を見直し、一部の地域以外は神戸市埋蔵文化財センターへの郵送を関係施設に依頼。
　①北海道・東北・関東・中部（福井以東・三重以東）九州南部（鹿児島・宮崎・熊本）・沖縄：廃棄、受入停止
　②近畿（三重は含まず）・中国東部（岡山・鳥取・島根）・四国：従来通り受入、収蔵庫9に配架。
　③大学の考古学研究室等が刊行する調査報告書：継続して受入。

自己評価の詳細 プラス面

・今後博物館で活用を見込めない図書の移管、廃棄を行い、蔵書数を削減した。

・考古分野の報告書について、埋蔵文化財センターとの住み分けを行い、博物館受入冊数の削減を実施した。

・今後の図書の受入方法について、以下のように検討した。
①20世紀以降の近現代絵画・彫刻・メディア芸術に関わる図録、作品目録、調査報告及び一般書籍は受け入れない（一定期間保管後、小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館へ移管、あるいは廃棄）。
②背表紙を持つ「年報」「館報」「活動報告」「要覧」類（組織の活動紹介のみで、論考、調査報告などを含まないもの）は受け入れない（一定期間保管後、廃棄）。
③背表紙のないリーフレット類（だより、ニュース、館報など）は受入手続きしない。
④北海道・東北・関東・中部（福井・三重を含む）熊本・宮崎・鹿児島・沖縄の自治体による発掘調査報告書は受け入れ手続きはしない。
⑤①～④以外（19世紀までの美術、および全時代の歴史・考古・民俗・工芸・建築など）の書籍全般（紀要・作品目録・調査報告書・大学による発掘調査報告書を含む）は、従来通り受入手続き。

自己評価の詳細 マイナス面

・建物の荷重の問題で、急遽図書の配架棚を変更する箇所が発生した。

・収蔵庫9の他館から受け入れる図録等の配架スペースは、一部すでに一杯になっている箇所が発生している。今後も定期的に移動などの作業が必要と思われる。

・文献室の配架図書について検討できなかった。

2-10　ショップ&カフェのリニューアル

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　予算的な余裕があれば、より凝った意匠とすることも可能であったが、「リニューアル基本計画」で謳った「開かれた博物館」をまさに体現することができるスペースとしての詳細実施設計が十分な協議の上、納得のいくものとなった点が評価できる。ライブラリカフェとして、ご利用の皆様に愛されるサービス空間となることを期待したい。

運営面での協議については、いまだ整っていないので、運営事業者の選定に向けた基準や仕様の決定など、克服すべき課題が山積している。今後とも管理課とも十分に調整しながら進めていく必要がある。

2-10-01　1階 ショップ&カフェの設計はどのようなものになりましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・近代の神戸を体感でき、カフェとしてもゆっくりとくつろぐことができるカフェ空間の構築を目指す。

・リニューアル後のカフェとショップのコンセプトを理解し、スムーズに運営することができる運営主体の選定方法について、管理課と協議しながら進めていく。

D実施内容

【設計工程】

・委託業者である（株）丹青社と協議の上、工程通り進捗。

・その間、逐次文化庁・東京文化財研究所と協議の上、指導・助言を得て、設計に反映。

【内容】

・カフの設計を基本計画にもとづいて遅滞なく実施。

・カフェで使用するトムセン邸の部材：（株）神田組に委託して解体・撤去・梱包作業を行った。

・カフェ、ショップの運営業者の選定基準：運営候補の数社にヒアリングを行う方針を決定。

自己評価の詳細 プラス面

・工程通り設計を実施することができた。

・常設展示していた「旧トムセン邸」の部材を活用した明治時代の空間と横浜正金銀行の昭和の空間をあわせもった、神戸の近代を体感しながらくつろげるカフェを設計することができた。

・カフェスペースについては、旧居留地や館蔵コレクション、神戸の歴史・観光ガイドを配架するための書棚も全体の雰囲気をそこなうことなく設計に盛り込むことができた。

・ショップについてもカフェの銀行時代の雰囲気と統一的な意匠で、かつ機能的に設計できた。

自己評価の詳細 マイナス面

・カフェ、ショップの運営業者の選定基準などについては、運営候補の数社にヒアリングを行うという方向性を出しているが、具体的なヒアリングまでは至らなかった。

・リニューアル後のカフェ、ショップの選定について管理課と十分協議することができなかった。

・「旧トムセン邸」の部材や家具のうち、リニューアルによって利活用できない資料の保管が新たな課題として発生している。

2-11　博物館グッズの販売・開発

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　定番商品の在庫補充とともに、新しいオリジナルグッズの製作から販売へとスムーズに進めることができた。リニューアルを控え、展覧会開催期間中での積極的な販売に努めた結果、完売のグッズが発生するに及んだことは商品開発が来館者ニーズに近しいものであった結果と捉えられ、評価できる。なお、商品に関する購入者の満足度は詳らかにできない。

リニューアル後の再開に向けて、今後とも館蔵資料を活用した新オリジナル商品の開発を継続的に促進する必要がある。さらに、新開発グッズの紹介も含めたミュージアムグッズについての広報活動の精力的な展開も望まれる。

2-11-01　ショップで扱う博物館オリジナルグッズの販売と開発は、どうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・所蔵資料を用いた新しいミュージアムグッズを製作する。
・絵葉書やクリアファイルなどの定番のミュージアムグッズのうち、在庫の少ないものを補充する。
・2月からリニューアル休館に入るため、年度のなるべく早い時期からミュージアムグッズの開発と販売を図る。
・ミュージアムグッズの広報活動（フェイスブック、ツイッター）をする。

D実施内容

博物館オリジナルグッズは以下の通り、製作・販売。
【新規製作】
①絵葉書
・製作枚数：4,800枚（1,200枚×4種：聖フランシスコ・ザヴィエル像、南蛮屏風、オルテリウス太平洋図、プランシウス世界図）
②A4クリアファイル
・製作数：1,000枚（1,000枚×１種：聖フランシスコ・ザヴィエル像）
③Wチケットファイル
・製作数：2,000部（1,000枚×2種：椿に文鳥図、更紗縫合下着）

【28年度に製作した博物館オリジナルグッズの販売状況】
①マスキングテープ　（７種類：銅鐸、南蛮屏風、南蛮屏風人物、泰西王侯騎馬図屏風、オルテリウス太平洋図、鶴亭、加賀屋引札）
・ショップへの納品：190個
・ショップ残数：「マスキングテープ　銅鐸」納品分完売／「南蛮屏風」残り15個／「南蛮屏風　人物」残り131個／「泰西王侯騎馬図屏風」残り143個／「オルテリウス」残り10個／「鶴亭」残り95個／「加賀屋引札」残り50個
②「トートバッグ　川西英」
・ショップへの納品：100個
・ショップ残数：残り55個

【ミュージアムグッズに対する入館者意見】
・5月25日「オリジナルグッズの種類を増やしてほしい」
・9月23日（土・祝）「市立博物館だけのマスキングテープがとてもいいと思うしもっと作ってほしい。値段も手ごろでいいと思う。マスキングテープや文具はたくさん買うので増やしたらいいのでは」

自己評価の詳細 プラス面

・既存のミュージアムグッズのうち、絵葉書とA4クリアファイルを製作し、在庫のなかったザヴィエル像の絵葉書とA4クリアファイル、南蛮屏風の絵葉書を補充できた。
・新しくWチケットファイルを製作した。ミュージアムショップの品揃えをより充実できた。
・絵葉書は7月に発注して、特別展「開国への潮流」前に、A4クリアファイルとWチケットファイルは8月に発注して、特別展「ボストン美術館の至宝展」の前に納品され、ミュージアムショップで販売できた。
・ミュージアムグッズについて、入館利用者からは好意的な意見がみられる。

自己評価の詳細 マイナス面

・ミュージアムグッズの広報活動ができていない。
・ミュージアムグッズのキャプションに誤りがあったが、指摘を受けるまで気がつかなかった。

3. 人々とともに歩む

評価 A 優れている

評価の詳細　学校教育ならびに生涯学習の場として、博物館の役割が十二分に果たせているのが現状であり、大いに評価できるところである。学校教育に関しては、この現状に甘んじることなく、新指導要領の改訂を視野に入れた連携授業の模索を行って欲しい。

リニューアル後には、生涯学習に関して学習支援交流員のさらなる育成、新たな視点で事業に取り組んで行くとこが望まれよう。休館中の課題としておきたい。

また、地域との連携については、今後も継承するとともに、博物館ならではがかなえられる各種要望などを汲み取っていく必要があろう。

3-01　学習支援交流員

評価　A 優れている

評価の詳細 ・学習支援交流員登録者数、活動回数ともに増加傾向にあり、学習支援交流員の活動は活発化してきており、学習支援交流員間の関係性も概ね良好である。特に木版画摺り体験講座や居留地案内など、学習支援交流員が主体となって運営する活動が回数・参加交流員数ともに大幅に増加した点は評価できる。一方で、意欲的に参加する学習支援交流員の固定化の傾向がみられるようになってきているなどの課題もある。ボランティアは自発的活動であることから、どのように参加を促すか検討を要する。
・博物館の企画事業への参加数が昨年に比較し減少した点については、リニューアル工事や各種事業の実施状況による影響もあり一概に評価できない。ただし、学習支援交流員の主体的活動への参加が増加傾向にあることに鑑みれば、学習支援交流員の活動が、より主体的なものに移行していることを示しているともいえよう。

3-01-01　学習支援交流員の人数・定例会・勉強会・研修の実施状況はどうでしたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

【前年度実績】
学習支援交流員　38人（内、活動アドバイザー１０人）
・定例会12回361人
・勉強会は回数人数集計なし
・研修5回114人
・全活動のべ人数1,870人
・全活動のべ回数225回

D実施内容

学習支援交流員　45人（内、アドバイザー11人）
定例会：原則毎月第1金曜日（祝日／臨時休館日は変更）　12回、349人／勉強会：6回、165人／研修：2回、38人

活動内容の大別は下記4種別
　館主催教育普及事業（開催日）／学校団体教育活動支援（来館日）／その他の館活動支援（必要日）／自主ワークショップ／定例会／居留地案内等（開催日）／全活動のべ人数1,849人／全活動のべ回数237回／博物館担当職員は定例会及び活動日に意見交換、情報提供、予定調整、消耗品購入希望の聴取等

自己評価の詳細 プラス面

・昨年よりも学習支援交流員の人数は増えており、また活動のべ回数も増加傾向にある。
・活動のべ人数は昨年よりも減少しているが、今年度は2月5日（月）以降休館したことを考慮すると、およその月平均人数では増加傾向にある。
・今年度はミニワークショップの活動回数も増え、そのため活動人数も増えたことになる。
・昨年度以来、学習支援交流員間の関係が非常にオープンで良い雰囲気が継続している。
・新規加入の学習支援交流員に対し、経験を重ねた学習支援交流員がうまく活動に導いており、1回当りの活動人数が増加している。
・他に自主的に館外で見学等のために集っている事例も増えている。

自己評価の詳細 マイナス面

・それぞれに事情があることだが、定例会にしか来ない学習支援交流員や、昨年度募集時に申し込みをしたが、活動内容が申込者の当初予想と異なっていたのか、活動をしない学習支援交流員がいる。

3-01-02　博物館の企画事業への参加状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【前年度実績】
・館主催教育普及事業：
　ミュージアム講座の補助　6回、35人／その他の普及事業・ジュニアミュージアム講座等の補助　20回、192人／小計　26回、227人
・学校団体教育活動支援：
　学校団体来館応対（学習室での学習支援と交流）　39回、167人／トライやる・ウィーク、博物館実習等の支援　5回、49人／小計　44回、216人
・その他の館活動支援：
　広報印刷物発送作業　11回、72人／特別展関連行事支援（開会式・講演会等）　23回、194人／一般来館応対（学習室での学習支援と交流・館内案内）　20回、40人／小計　54回、306人
合計　124回、749人

D実施内容

【館主催教育普及事業】
ミュージアム講座の補助　6回、34人／ジュニアミュージアム講座等の補助　12回、74人／他館と連携した教育普及活動　9回、75人／その他の普及事業　6回、40人／小計　33回、223人
【学校団体教育活動支援】
学校団体来館応対　44回、105人／トライやる／ウィーク等の支援　3回、28人／博物館実習等の支援　1回7人／小計　48回、140人
【その他の館活動支援】
広報印刷物発送作業　4回、26人／特別展関連事業支援　23回、177人／一般来館応対　22回、30人／その他の作業　4回、15人／小計　53回、248人
合計　134回、611人

自己評価の詳細 プラス面

・昨年度比で、館主催教育普及事業は回数7回増、4人減、学校団体教育活動支援は4回増、76人減、その他の館活動支援は1回減、42人増、合計で10回増、138人減となっている。
・人数的に大きく減っているが、今年度はリニューアル工事のために、春休み前の学校団体来館応対がなかったこと、博物館実習等での活動カリキュラムが少なかったこと、広報印刷物の一斉発送作業が少なかったことがあげられる。

自己評価の詳細 マイナス面

・ある程度は仕方のないことであるものの、活動日による活動人数の差が生じている。

3-01-03　学習支援交流員が主体となって行われた講座・ワークショップ・ツールの開発はどのように開催されましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

【前年度実績】
7月31日（日）14時～16時「『ザヴィエル』ってこんな人!“ハイカラ・ザヴィエル”」（ミニ掛軸つくり）
学習支援交流員10人　参加者21人
8月７日（日）14時～16時「南蛮の風がふくかな！？飾って使ってマイ扇子」（オリジナル扇子・屏風つくり）
学習支援交流員７人　参加者25人
8月20日（土）14時～16時「浮き出ろ古代の模様　土器の拓本をとろう！」（拓本作業体験）
学習支援交流員14人　参加者28人
8月21日（日）14時～16時「親子で楽しむ古地図ワークショップ」（伊能忠敬の地図解説・歩測体験）
学習支援交流員13人　参加者63人
8月27日（土）14時～16時「居留地たんけん」（居留地散策・解説）
学習支援交流員14人　参加者33人
合計　開催５回　学習支援交流員58人　参加者170人

不定期「浮世絵摺り体験」
今年度から新規開催　複数回開催　未集計

D実施内容

【ワークショップ】
・7月30日「『ザヴィエル』ってこんな人!“ハイカラ・ザヴィエル”」（ミニ掛軸つくり）学習支援交流員8人　参加者12人
・8月11日（金・祝）「南蛮の風がふくかな！？飾って使ってマイ扇子」（オリジナル扇子・屏風つくり）学習支援交流員12人　参加者25人
・8月19日「浮き出ろ古代の模様　土器の拓本をとろう！」（拓本作業体験）　学習支援交流員10人　参加者52人
・8月26日「親子で楽しむ古地図ワークショップ」（伊能忠敬の地図解説・歩測体験）　学習支援交流員12人　参加者51人
・8月27日「浮世絵摺り師に挑戦！」（木版多色摺体験）　学習支援交流員11人　参加者34人
・9月10日「居留地たんけん」（居留地散策・解説）　学習支援交流員14人　参加者21人　合計　開催6回　学習支援交流員67人　参加者195人
【「摺り体験」「拓本体験」】
・不定期（火曜・第2日曜）「木版画摺り体験」・「拓本体験」（両方、片方あり）　毎回　学習支援交流員5～13人　参加者6～48人・21～78人　　合計　開催35回　学習支援交流員295人　参加者990人
【一般向けの居留地案内】
・12月から月1回ペース（12月22日、1月26日、2月20日、3月10日）で開催　　毎回　学習支援交流員6～9人　参加者9～13人　　合計　開催4回　学習支援交流員28人　参加者45人
【上記ワークショップ準備・新ツール検討会等】
　合計36回　学習支援交流員271人
【新規開発ツール】
・居留地パズル／扇子入れ／ボスター再利用紙袋

自己評価の詳細 プラス面

従来、不定期のワークショップで培われた内容を活かして、今年から「浮世絵摺り師に挑戦！」（木版多色摺体験）を夏休みのメニューとして増やすことができた。そして次の新規ワークショップ候補として「組紐つくり」を現在模索中である。またリニューアル休館中にも活動できるよう、一般向けの居留地案内を12月から開始した。新規ツールも自主的に各種開発されている。費用を多くかけずに、かつ見た目良くできている。

自己評価の詳細 マイナス面

今年度は展覧会日程上、夏休み期間中に常設展のみの期間（7月18日～4日、休館日を含む）があったため、来館者の自由参加型のワークショップは参加者数が相対的に少なくなった。
ワークショップリーダーの都合の急変に十分に対処しきれなかったことがあった。
夏休み期間中も含め、ワークショップの広報の方法が検討課題である。

3-02　学校との連携

評価　A 優れている

評価の詳細・学校来館対応については、2月よりリニューアル工事休館に入ったため、来館者数は減少したが、班別入館や特別展開催時の常設展のみの入館も積極的に受け入れたことで、のびのびパスポート圏外の学校にとっては高額になるため敬遠されがちな特別展開催時でも、学校団体の入館に柔軟に対応することができた。オリエンテーションについても各学校の要望を踏まえて内容を精査し、博物館の収蔵資料を活かした充実した解説を行うことができている。中学生の職業体験「トライやる・ウィーク」については、例年通り春季・秋季の2回受け入れており、接客から収蔵庫整理、パネル制作など幅広い体験を提供できている。リニューアル後は運営形態が変わるので、利用方法の検討や学校団体への周知をどのようにはかるか検討を要する。

・連携協定を締結する大学のうち、神戸松蔭女子学院大学とは文化庁の助成事業において、多くの学部・学科と連携した事業を実施することが出来ている。また今年度の新たな試みとしてインターンシップの受け入れを行った点は評価される。神戸市外国語大学とは、講演、英文パンフレットの制作など、当館学芸員の専門外の分野や、同学の強みを活かした分野において協力いただけた。今後、円滑な連携実現のために、十分な情報連絡と緊密は意識共有を図っていく必要がある。

・連携授業などのアウトリーチについては、すでに広く知られ、高い人気があり、今年度も過年度同様目標回数を大幅に超える連携授業を実施している。収蔵品のレプリカを用い、学芸員が同行し、より専門性の高い連携授業を行えたことで、先生方からも高い評価を得られている。ただ、リピート率が高いため、新規校の受け入れが難しい状況が生まれており、当初の予約可能数を減らすなどの対策が必要である。また、おきしお夢はこぶ号の出動を増やすため、活用法等の周知を図ることが望まれる。

・子供向け鑑賞ガイド、ワークシート、ワークショップ、オリエンテーションソフトともに展覧会や事業ごとに充実した内容のものを作成でき、好評を得ることができた。それぞれ工夫を凝らして制作しているが、各コンテンツのスタイルについてはこれまでの形を踏襲するものが多く、リニューアル後に向けて、新たな企画を練ることが課題である。

・子供向け事業については、開催数、内容ともに充実したものを提供でき、参加者からも高い評価を得られている。28年度より新たに中高生むけの事業も企画・実施している。参加したい企画内容・広報展開の検討が今後の課題である。

3-02-01　学校関係の来館にはどのように対応しましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

【学校団体受入】28年度実績は合計175校(7,564女)

【学校団体オリエンテーション】28年度実績は合計49校(3,005人)

【トライやる・ウィーク受入】春2週、1週につき最大4校8人、計16校32人を受け入れる。博物館独自のプログラムを工夫し、実施する。28年度実績は14校24人。

【教職員向け研修講座】28年度 2回29人

D実施内容

【学校団体来館数】

小学校　36校(2,497人)／中学校　49校(2,373人)／高等学校　28校(1,411人)／大学　3校(92人)／特別支援学校　17校(157人)／専門学校　2校(52人)合計／135校(7,564人)

【学校団体オリエンテーション実施数】

小学校　28校(1,946人)／中学校　10校(902人)／高等学校　7校(703人)／特別支援学校　3校(27人)／専門学校　2校(52人)／合計50校(3,630人)　（上記の内容）古代の神戸　5校／居留地／文明開化　9校／港の発展　9校／神戸の歴史　4校／博物館／常設展紹介　4校／浮世絵　1校／特別展　23校

【トライやる／ウィーク】

春季：5月30日～6月2日、6月6日～9日の2週間／秋季：11月7日～10日の1週間／参加者：11校22人。／活動：券売補助、収蔵庫整理、学習室での活動、旧居留地探検、子供向けの特別展出品作品紹介パネル制作など。

【教職員向け研修講座】

三木市立小学校長会「学校連携教育普及活動の紹介」　20人（7月25日）

西脇市中学校社会科研究部 「開国への潮流展解説」　7人（8月25日）

自己評価の詳細 プラス面

・小中学校の校長会にて資料配付し、各校にポスター・チラシを送付し、広報に努めた。

・班別来館も積極的に受け入れて対応した。

・オリエンテーションの実施は各学校の要望に対し、出来る限り希望に沿うように取り組んだ。

・のびのびパスポート圏外の有料の学校団体の受け入れに関しては、特別展会期中は特別展料金での入館を基本として対応している。学校の実情からすると入館料が高額になるためこれまで敬遠されがちであったため、今年度は常設展のみの観覧を希望する学校団体の入館にも積極的に対応した。

自己評価の詳細 マイナス面

・のびのびパスポートがあれば、事前連絡なくても団体で利用できると誤解している学校があるため、この点についての周知の必要がある。

・会場や日程の関係で、オリエンテーションの受付を断らなければならない場合があった。

3-02-02　大学との連携事業はどのように行われましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

博物館実習について適切に受け入れ事務をおこない、中身の濃い実習をおこなうことを目指す。
神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学と連携し、相互の強みを活かした事業を実施することを目指す。
28年度実績：【神戸市外国語大学との連携、展覧会記念講演会】参加者137人　【神戸松蔭女子学院大学との連携】連携協定を締結、移動博物館車による活動。

D実施内容

【博物館実習】
・第1班：8月22日～26日
・第2班：9月5日～9日
・受入：19大学、24人
【神戸松蔭女子学院大学との連携】
①明治時代の洋菓子再現（文化庁補助事業）
　明治時代のレシピ本『和洋菓子製法独案内』（当館蔵）をもとに、文学部日本語日本文化学科と人間科学部都市生活学科が、明治時代の洋菓子の再現を実施。11月18日、神戸松蔭女子学院大学の学園祭で、成果発表と洋菓子の配布を実施。報告書も作成。
②明治時代の洋装再現（文化庁補助事業）
　「貴顕舞踏の略図」（当館蔵）などを参考に、人間科学部ハウジングデザイン学科が着装できる明治時代のドレスを再現。3月25日にオープンキャンパスのプログラムのひとつとして、完成したドレスの展示と報告会を実施。報告書も作成。
③RICあそ美ば（文化庁補助事業）
　10月15日に小磯記念美術館周辺で実施したアートイベントに人間科学部子供発達科学部が「ワクワク！フォトフレームをつくろう！」、「うわ！消えた！お金が消える貯金箱」の2ブースを出品。文学部日本語・日本文化学科の丸山講師の指導のもと、書道部による書道パフォーマンスを実施。
・外国人のためのワークショップにおける通訳（文化庁補助事業）
　12月2日「水墨画」、12月9日「掛け軸裏打ち」、1月21日「浮世絵」のワークショップに文学部英語学科の学生が通訳を担当。
・「アート　歴史　ファッション　神戸を知る」における講演（文化庁補助事業）
　人間科学部ハウジングデザイン学科教授・徳山孝子氏が「べっぴん（別品）さんと神戸のファッション」と題して講演。
・インターンシップ受入
　8月8日～29日まで文学部英語学科3回生をインターンシップとして受入。学習支援交流員のワークショップマニュアル（浮世絵体験、拓本体験）の英訳や、館蔵名品解説の英訳、教育普及事業の補助などを実施。
・来年度の授業「神戸総論」の協力合意、シラバス作成
　来年度の松蔭における春学期の授業「神戸総論」を当館学芸員、大学教員で協力して担当することを合意。シラバスを作成。
【神戸市外国語大学との連携】
・小磯記念美術館の英文パンフレット作成に協力（文化庁補助事業）
・「アート　歴史　ファッション　神戸を知る」における講演（文化庁補助事業）
　中国学科准教授津守陽氏が「海港都市神戸の作家たちが描く『中国人』のすがた」と題して、講演。

自己評価の詳細 プラス面

【博物館実習】
模擬展示などをおこない、実践的で充実した内容となった。

【神戸松蔭女子学院大学との連携】
・文化庁の助成を得て多くの学部、学科の協力のもと多様な事業が展開できた。
・博物館が資料を提供し、その資料をもとにスキルを持った教員や学生が事業展開する双方の強みを活かした事業となった点が評価できる。
・インターンシップを受け入れたことも新たな試みとして評価できる。
・神戸の大学と博物館にしかできない「神戸総論」の授業を来年度に実施することで合意した点も評価できる。

【神戸市外国語大学との連携】
・「神戸を知る」において当館学芸員ではカバーできない神戸ゆかりの文学について講演いただき、受講者に好評を得た。今後も博物館学芸員が専門外とする分野について協力体制を構築することが望ましい。
・小磯記念美術館の英文パンフ制作など、外国語大学ならではの強みを発揮していただいた。今後、多言語化が求められる時代において、より一層の協力関係が求められる。

自己評価の詳細 マイナス面

・大学側と博物館側で事務処理や資料の取り扱いに関する認識にずれがあった。

3-02-03　連携授業などのアウトリーチ活動はどのように行われましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

《目標》

・連携授業について、過去5年間100回以上実施されている。今年度も年間でのべ100回以上の実施を目標とする。

【過年度実績】

平成26年度：132校、9,453人

平成27年度：113校、8,667人

平成28年度：134校　10,102人

《課題》

・校長会や各研修会、総会などでの広報活動や口コミで広がっており、授業を希望する学校が年々増加している。そのため授業を引き受けられない場面が増加している。

D実施内容

【スケジュール】

・年度当初に校長会、学校に配布する博物館利用案内で連携授業プログラムを紹介。

・4月当初から電話にて授業の受付を開始。日程調整、学校との打合せ、授業実施と進めた。

【学校数・人数等】

131校（幼1、小122、中7、高1）、9,026人（内訳）／古代体験　17回／銅鐸　1回／源平　24回／西洋　27回／伊能図　17回／文明開化　16回／浮世絵　22回／水墨画　5回／六甲　1回／港　1回／「古代体験」「銅鐸」「伊能図」「文明開化」の連携授業：学芸員も同行し、より専門的な講話、資料活用を進めた。／学芸員は5人、のべ25校の授業に同行し、より専門性が高い内容の講話を実施。

【おきしお夢はこぶ号】

・出動回数　15回

自己評価の詳細 プラス面

・年度初め、2，3日で2学期までの予定が埋まってしまう程の人気がある。

・当館にある収蔵品をレプリカ教材として用いることにより、神戸市立博物館にも関心を持たせることができた。

・授業の進度や内容を深めることにも貢献することができ、現場の先生方にも好評を得た。

・学芸員が同行することにより、より専門性の高い連携授業を行えた。

・これらのことにより、リピート率が非常に高い。

自己評価の詳細 マイナス面

・年度初めの2，3日で2学期までの予定が埋まってしまうほど人気がある。そのため、授業を引き受けられない場面が出てきている。リピート率も高いため、新たな学校へ出向くことが少なくなっている。

・おきしお夢はこぶ号の出動回数が、連携授業の回数とくらべると、非常に少ない。おきしお夢はこぶ号が連携授業ほど認知されておらず、広報活動が十分でないためだと思われる。

3-02-04　子供向けコンテンツはどのようなものを制作しましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

【子供向け鑑賞ガイド】

特別展の内容に則して、教育普及の観点から子供たちに何を学び取ってもらいたいかが意識されており、展覧会に興味を持たせ、楽しみながら鑑賞ができるよう工夫された、親しみのあるガイドを制作する。

【ワークシート】

展覧会に興味を持たせ、理解を深めることのできる、小学生〜高校生を対象とするワークシートを制作する。

D実施内容

【特別展子供向け鑑賞ガイド】

・「遥かなるルネサンス」　12,000部製作　来館の小中学生を対象に配布

・「開国への潮流」　12,000部製作　来館の小中学生を対象に配布

・「ボストン美術館の至宝展」　12,000部製作　来館の小中学生を対象に配布

【ワークシート】

・「遥かなるルネサンス」　こどもの日スペシャル　親子鑑賞会用ワークシート
　参加者に配布　56家族、171人

・「ボストン美術館の至宝展」　親子鑑賞会用ワークシート
　参加者に配布　38家族、111人

【オリエンテーションソフト】

・特別展来館の学校団体、イベント参加者対象に使用するオリエンテーションソフトの制作

・「遥かなるルネサンス」／「開国への潮流」／「ボストン美術館の至宝展」

自己評価の詳細 プラス面

【子供向け鑑賞ガイド】

特別展ごとに指導主事と担当学芸員で使用画像、内容、レイアウトを検討し、博物館独自なものを作成している。配布した子供たちや保護者に好評を得ている。

【ワークシート】

親子鑑賞会の参加者向けに作成。特別展会場を鑑賞しながらクイズ形式の問題を解くなど、楽しみながら鑑賞を進められるもので、参加者から好評であった。

【オリエンテーションソフト】

子供向けに楽しく、分かりやすく理解できる内容で作成している。実施後の感想はおおむね好評である。

自己評価の詳細 マイナス面

どのコンテンツも、展覧会の内容にあわせて工夫をこらして制作しているが、それぞれのコンテンツはここ数年間、同じようなスタイルになってきている。他館の取り組み等を参考に、新たな視点から、これまでにないものを考案する必要がある。

3-02-05　子供向け事業はどのように開催されましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

《目標》

・子供向けプログラムの開催は教育普及活動の重要な項目の1つである。開かれた博物館として、子供たちに博物館での学びの楽しさを最も効果的に理解してもらえる取り組みとして内容を精選しながら、積極的に実施していかなければならない。

《課題》

子供向けプログラムは多種多様なものが制作されており、体験された方々からは多くの好評を得ている。しかしながら、中高生の参加人数が非常に少ないのが現状である。

D実施内容

【特別展に関連したジュニアミュージアム講座、こどもの日スペシャル、親子鑑賞会等】

各展覧会の評価シート参照。

【夏休み土器づくり教室】

成形：7月22日／23日／焼成：8月6日／参加者：のべ54人

【博物館たんけん隊

7月29日／小学生の部　33人／中高生の部　7人（うち中学生7人)

【こうべ歴史たんけん隊】

8月20日／参加者：37人（子供18人、保護者19人）／29年度は保護者と子供の参加。特別展「開国への潮流」の展覧会場で簡単な解説を行った後、神戸の開港のおもかげを探しに、神戸市内とその周辺を貸切バスで訪問。訪問先は西宮砲台、淡路ＳＡで昼食、松帆台場跡、舞子砲台跡、和田岬灯台、海軍操練所跡。

【学習支援交流員ワークショップ】

評価シート「3-01-03」参照。

【参加者の声】

／とても楽しく参加できました。また来たいです。／ゴッホの絵の魅力が伝わりました／子供と一緒に参加できて、見学できてよかったです。／ミッションが）難しいなぁと言いながらも親子一緒に楽しく見られました／日本のかけ軸に興味を持った。／オリジナルを探すのが本当に難しかったけど、すごい楽しかったです。／焼けた土器を見て、こんな風に作ってたんだなと古代の人の気持ちが分かりました。／実際に現地に行って、学芸員の解説を聞けてさらに神戸の事が好きになりました。／浮世絵を摺るだけでなく、詳しい解説があってよかった。／わかりやすい居留地の案内でした。

自己評価の詳細 プラス面

・今年度の子供向けプログラムの開催は、開催数からみても充実していると考えられる。

・多くのプログラムで好評価を得ている。参加応募多数のため、抽選になるプログラムが多数ある。

・外部施設（六甲自然の家）での開催だった「夏休み土器づくり教室」の焼成に関しては、参加者の集合から移動、終わりまで円滑かつ無事に行うことができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・中高生向けの博物館たんけん隊を含め、中高生の参加者が依然として少ない。

3-03　地域との連携

評価　A 優れている

評価の詳細 連携協定を結ぶ勤労市民センターをはじめ、婦人大学や公民館など他機関が主催する講演会への講師派遣回数は増加しており、学芸員の研究成果を地域に発信する絶好の機会となっている。また地域イベント等への「おきしお夢はこぶ号」の出動も増えているが、事前調整の不足など課題が残った。
また、例年通り、近隣の諸団体から広報面における協力や助成を得ることができた。
旧居留地連絡協議会の会員として各団体との親睦を深め、景観維持につとめたほか、プレミアムフライデーにちなんだ夜間開館とコンサート等を旧居留地内の各ミュージアムと連携してできた点は、新しい試みとして評価できる。
文化庁補助事業として実施した連続講演会「神戸を知る」では、実行委員会を組む近隣博物館・美術館、連携協定を結ぶ大学から講師を出し合うことで、単館ではできない多彩で充実した内容の連続講演会にすることができた。また開催する曜日や連続受講の原則、受付体制など、来年度にむけて検討すべき課題も見つかった。

3-03-01　地域との連携事業はどのように行われましたか？

自己評価　A 優れている

P課題と目標

【29年度実績】
　勤労市民センターへの派遣9件／その他の事業への講師派遣など33件／地域の文化財に関する相談・協力業務13件／近隣諸団体との協力・助成6件
・旧居留地連絡協議会の会員としてクリーン作戦への参加、コンサート開催への助力をし、旧居留地内所在法人との親睦や景観維持に協力
・三宮センター街1丁目商店街振興組合からは特別展開催時にアーケード内へ吊りバトン設置
・三宮センタープラザ婦人会、三宮インフォメーションギャラリー「三宮HATENA」、神戸地下街株式会社「さんちかインフォメーション」にて特別展開催時にポスター掲示・チラシ配布
・日本教育公務員弘済会兵庫支部からは展覧会への助成金とチケットも買上
・一般財団法人みなと銀行文化振興財団からは展覧会への助成金
・みなと銀行本店営業部からは夏休み期間中のワークショップ開催への助成

D実施内容

【勤労市民センターへの講師派遣】　14件　評価シート「2-05-01」参照
【婦人大学への講師派遣】　2件　評価シート「2-05-01」参照
【こべっこランドへの講師派遣】　1件　8月10日「国宝　桜ヶ丘銅鐸のヒミツとミニチュア銅鐸鋳造体験」
【清風公民館への講師派遣】　1件　11月15日「源平合戦図屏風」絵解き
【神戸生活創造センターへの講師派遣】　1件　8月2日「浮世絵摺師に挑戦！」
【芦屋市立美術博物館への講師派遣】　1件　10月31日「浮世絵摺り入門講座」
【神戸ファッション美術館への講師派遣】　1件　2月10日「浮世絵入門」
【「おきしお夢はこぶ号」での各種イベント出展】　6件
5月20日「神戸まつり　長田フェスティバル」／7月16「灘・夢ナリエ」／10月14日「はたらくくるま大集合inかとう」／10月15日「RICあそ美ば」／11月11日「中央図書館読書週間行事」／11月18日「松蔭祭」
【地域の文化財に関する相談・協力業務】　17件
【近隣諸団体との協力・助成】　7件
旧居留地連絡協議会の会員としてクリーン作戦への参加。コンサート開催への助力。旧居留地内所在法人との親睦や景観維持に協力。／11月24日、12月22日、1月26日　プレミアムフライデーにちなんだ夜間開館とコンサートを、旧居留地内のパールミュージアム、とんぼ玉ミュージアム、らんぷミュージアムと連携して実施。／三宮センター街1丁目商店街振興組合からは特別展開催時にアーケード内へ吊りバトン設置／三宮センタープラザ婦人会、三宮インフォメーションギャラリー「三宮HATENA」、神戸地下街株式会社「さんちかインフォメーション」にて特別展開催時にポスター掲示／チラシ配布／日本教育公務員弘済会兵庫支部からは展覧会への助成金とチケット買上／一般財団法人みなと銀行文化振興財団からは展覧会への助成／みなと銀行本店営業部からは夏休み期間中のワークショップ開催への助成
【文化庁補助事業　アート　歴史　ファッション　神戸を知る】
9月16日「べっぴん（別品）さんと神戸のファッション」（神戸松蔭女子学院大学教授・徳山孝子）75人／9月23日「神戸のパブリックアート」（ＢＢプラザ美術館顧問・坂上義太郎）75人／9月30日「絵画で巡る近代神戸」（神戸市立小磯記念美術館学芸員・高橋佳苗）80人／10月7日「戦国武将と神戸」（当館学芸員・三好俊）67人／10月14日　「神戸ゆかりの作家たちが見た中国」（神戸市外国語大学准教授・津守陽)65人／10月21日「ファッション都市神戸のファッション」（神戸ファッション美術館主査・学芸員・浜田久仁雄）65人

自己評価の詳細 プラス面

・平成25年度から始まった勤労市民センターが主催する講演会への講師派遣回数は昨年に比べ増加している。勤労市民センター以外でも、婦人大学や公民館など他機関への講師派遣、イベントへの「おきしお夢はこぶ号」の出動も増えている。
・商店街組合など近隣の諸団体からバナーやポスター掲示、チラシ配架などの協力を得られた。
・日本教育公務員共済会兵庫支部、みなと銀行分か振興財団などから自主企画展に対する助成を得ることができた。
・旧居留地連絡協議会の会員として、各団体との連携を深めたほか、プレミアムフライデーにちなんだ夜間開館とコンサートを、旧居留地内のパールミュージアム、とんぼ玉ミュージアム、らんぷミュージアムと連解して実施できた。
・各学芸員が、地域史や地域の文化財について色々な問い合わせに積極的に対応した。
・文化庁の補助を得て館外の講師による講演が実施でき、ファッション・文学・現代アートなど、当館学芸員では語ることが難しい神戸の魅力を発信できた。受講者からもまた開催して欲しいとの意見が寄せられた。

自己評価の詳細 マイナス面

・「おきしお夢はこぶ号」出展の際、主催者側との連絡や事前調整が足りないイベントがあった。
・「アート　歴史　ファッション　神戸を知る」は６週連続開催の６回参加を原則としたため、参加しにくいという声もあった。また特別展の鑑賞は不可としたため、特別展会場への立ち入り制限の対応に多くの人員を要した。

3-04　社会的弱者への配慮

評価　F 評価が困難

評価の詳細 例年、混雑が見込まれる大規模海外展において、障がい者の方がゆっくり鑑賞できる機会を提供する目的で年1回のペースで障がい者のための鑑賞会を実施している。平成29年度は「ボストン美術館の至宝展」において行ったが、「古代ギリシャ前年度に比べ参加者数が非常に少ない結果となった。各年の実施条件が異なるため、「F評価が困難」と評価したが、より多くの方にご参加いただけるよう、鑑賞会の実施方法や広報展開等について検討を要する。
なお、現在実施しているリニューアル工事では、社会的弱者へ配慮したアメニティ設備やサイネージを実現する予定である。

3-04-01　高齢者・障害者など社会的弱者に配慮したイベントはどのように行っていますか？

自己評価　F 評価が困難

P課題と目標
博物館として、「高齢者・障がい者など社会的弱者に配慮したイベント」を自己点検の項目にあげるのであれば、年度当初に本事業の計画をする必要があるのではないか、という課題が考えられる。
【28年度実績】「古代ギリシャ展」3月13日障害者のための鑑賞会 410人参加。

D実施内容
ボストン美術館の至宝展「障害者のための鑑賞会」
・日時：11月13日13時～16時（入館は15時30分まで）
・対象：障害者手帳・療育手帳等をお持ちの方とその介護者１名
・入館料：無料
・参加者：124人

自己評価の詳細 プラス面
・当日は問題なくスムーズに進行した。

自己評価の詳細 マイナス面
・平成28年度と比べると、参加者数が３割程度に落ち込んでいる。

4. やさしさと安心の確保

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 老朽化した設備については、非常用自家発電設備などをリニューアル工事期中に更新すべく設計を進めている。アメニティ関連については、様式トイレの増設等をリニューアル工事で実施予定。リニューアル後の運営体制の検討も概ね順調に進めている。

4-01　施設管理

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　建物設備については、法令に基づいた点検を実施しており、機能面及び安全性は確保できている。
ただ、建物の経年劣化及び設備の老朽化については、今後計画的に対応、更新していく必要があり、予算の確保をしていく。

4-01-01　現在の建物・設備の状況はどうですか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・法令で定期点検や訓練が必要な事項については、すべてクリアするべく予算計上し、執行するよう努める。しかしながら、建物、設備等古くなっているものもあり、現在の法令では合致しない「既存不適格」の部分もある。
・新しい法令等に合う設備や施設を更新していく必要がある。

D実施内容

【公共建築物定期点検】
・29年度は、建築基準法第12条第2･4項、神戸市公共建築物の定期点検の実施及び報告に関する要綱に基づき、3年に1度の定期点検の実施年次に該当。
・3社見積合せを行い、武本設計監理に業務委託の発注を実施。
・点検結果：緊急性を伴う補修箇所は無く、経年に伴う建物の劣化が指摘。
・1月17日に点検終了、神戸市住宅都市局長宛、神戸市公共建築物定期点検報告書を1月18日に提出、受理。
【通常点検業務】
・エレベーターや消防用設備等点検等、法定点検や修理を行い、法定点検をクリアするとともに、古い設備を更新し、少しでも「既存不適格」部分をなくすよう努力している。

自己評価の詳細 プラス面

・法令等で決まっている点検等については当然クリアしている。ただ、設備自体が相対的に古くなっているため、今後も計画的に更新していきたい。

自己評価の詳細 マイナス面

・経常的な予算の増額を確保することが困難な状況であるが、引き続き設備点検費等予算確保に努めたい。

4-01-02　上記の問題点の改善や、将来の不具合を想定した対策はどのようにおこなわれましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

・設備総括管理業務の委託業者との連携

D実施内容

・公共建築物定期点検結果や消防設備等点検結果の情報を共有し、設備点検の専門的な観点から補修等実施。

自己評価の詳細 プラス面

・常に情報を共有するよう努め、設備管理に支障のないように心がけている。

自己評価の詳細 マイナス面

・設備自体が古いものが多く、部品確保が難しい中、予算増額が認められるよう努力したい。

4-02　アメニティ関連のリニューアル

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　トイレについては、洋式化を進めるとともに、授乳室・保健室については、利便性を高める設計となった。

4-02-01　トイレ、授乳室、保健室の設計はどのようなものになりましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・必要な機能について実施設計への反映	・トイレは、様式便器の数を大幅に増加することを設計に反映している。 ・授乳室、保健室の設備について、「流し」等必要な意見を提案し、設計に反映。	・必要な機能については、設計に反映することが出来た。	・3階トイレについては、予算の制約により面積拡大を見送った。

4-03　警備・清掃・案内事業

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　機械警備及び人的警備については、特に問題なく実施できた。
清掃についても、来館者が気持ちよく施設内及び周辺を利用いただけるよう遅滞なく行った。
インフォメスタッフによる館内案内・券売・ショップも円滑に運営できた。

4-03-01　博物館の警備事業はどのように行われましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・人的警備体制は、通常開館体制は2名。内1名は24時間勤務。通常休館日及び臨時休館日は1名24時間体制。
・リニューアル工事期間中の業務体制の見直し。

D実施内容
・機械警備の契約更新は平成30年度までなのでその準備を、人的警備業務については毎年5月の契約に向けた仕様書の作成、契約監理課との調整を実施。
・特に、2月5日以降、リニューアル工事のため臨時休館となるので、警備人員の変更を実施。
・常設展開催時は、2名体制で警備を行い、内1名については24時間勤務(仮眠時間含む)で警備に当たった。
・休館日の警備については、1名24時間勤務(仮眠時間含む)体制で警備に当たった。
・特別展開催時は、通常開館体制で巡回警備の強化を図った。
・2月5日以降、リニューアル工事期間の警備に当たっては、休館日体制で警備に当たっている。

自己評価の詳細 プラス面
・契約更新も問題なく更新できた。
・立哨警備及び巡回警備についても特に問題も無く業務遂行できた。

自己評価の詳細 マイナス面
・1名体制の時間帯に、巡回警備等により通用口を閉鎖することがある。

4-03-02　博物館内の清掃事業はどのように行われましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・清掃業務は、開館日が3名体制、臨時休館日が2名体制。
・リニューアル工事期間中の業務内容及び体制の見直し。

D実施内容
・毎年10月に契約更新となることから、リニューアル工事期間中の業務内容及び業務体制の検討に入り、仕様書の作成、契約監理課との調整を行った。
・常設展開催時は、3名体制(2名は午前7時30分～10時30分まで、1名は午前8時～午後5時まで)で館内・外の清掃を実施。臨時休館日は、2名体制(1名は午前7時30分～10時30分まで、1名は1名は午前8時～午後5時まで)で館内・外の清掃を実施。
・特別展開催時は、来館者が増加することから通常清掃体制に1名増員し、清掃業務に当たった。
・2月5日以降の清掃にあっては、1名体制で午前7時30分～12時までの清掃体制で清掃業務に当たった。

自己評価の詳細 プラス面
・契約更新も問題なく更新できた
・常設展、特別展ともに館内清掃の大きなクレームも無く、清掃業務が実施できた。
・来館者の気分が優れず嘔吐等の事案も迅速に対応できた。

自己評価の詳細 マイナス面
・特になし

4-03-03　インフォメスタッフによる館内案内・券売・ショップ業務委託をどのようにおこないましましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・インフォメスタッフの業務内容は、券売、インフォメーション業務、事務室での電話交換業務。その関連事業としてミュージアムショップの運営を行っている。
・通常業務での人員配置は4名以上配置。特別展開催時は、通常業務に1名以上の増員体制。

D実施内容
・29年度は、リニューアル工事の関係で、4月1日から平成30年2月4日までの契約。
・常設展以外に、「遥かなるルネサンス展」、「開国への潮流展」、「ボストン美術館の至宝展」の特別展、「南蛮古地図企画展」、「ギャラリー展」に従事。
・常設展では、3ポスト(事務室、券売、インフォメーション）4名以上で業務を実施。午前と午後にインフォメーションスタッフが館内展示物の解説を行った。
・特別展開催時は、勤務時間変更による対応や、来館者増加に伴う1名増員でインフォメーション業務の対応を行った。
・特別展における来館者記念行事等も滞りなく実施できた。

自己評価の詳細 プラス面
・インフォメスタッフが4月から変更となったが、大きな混乱や問題は発生しなかった。
・常設展、特別展ともに大きなクレームも無く、インフォメーション業務が遂行できた。

自己評価の詳細 マイナス面
・スタッフが変更になったことで大きな混乱は発生しなかったが、小さな連絡ミスなどが4月当初にあった。

4-04　リニューアル後の運営体制

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　1階無料化に伴う運営体制については、開館時間、来館者の動線等も含め、様々な場合を想定し、検討を進めている。
さらに、1階に予定しているライブラリーカフェについても、来館者に親しまれ十分機能するよう運営方法等について検討を進めている。

4-04-01　1階無料化に伴う運営体制案はどのようなものになりましたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・インフォメスタッフの人員配置検討。 ・ライブラリカフェの検討。	・基本計画図を基にインフォメスタッフの配置計画等検討中。今後、実施設計等が決まり人員配置等の詳細が判明する段階で具体的な人員配置を検討。 ・ライブラリカフェについては、その運営方法、ミュージアムショップとの関連性を検討中。また、ライブラリとカフェを一体型とするのか分離するのか検討中。	・順調に検討を進めている。	・特になし

4-05　緊急時対応

評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細　緊急事態の対応については、概ね適切に対応できた。
南海トラフ地震については、防災計画を策定し、職員に周知徹底を図った。さらに消防計画を策定するとともに、消防訓練を実施し、防災に対する職員の意識を高めた。

4-05-01　緊急事態が発生した時の、対応状況はどうでしたか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・何がいつ起きるかがわからないため、すべての職員・スタッフがどう対応するかをマスターしておく必要がある。

D実施内容
・実際に起きた緊急事案(展示室での転倒、気分が優れない等)は救急隊員に無事に引き継ぎができた。
・暴力事案については、警察の介入を要請し、当事者間での和解に導き解決した。

自己評価の詳細 プラス面
・救急車要請や警察への通報等、迅速に対応ができた。

自己評価の詳細 マイナス面
・事案の発生時にもう少し迅速な対応が必要。（特に、特別展での運営スタッフ等の無線傍受等。常設展では内線電話による通報。）

4-05-02　将来起こりうる大規模災害時の対応はどのように策定・周知されていますか？

自己評価　B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標
・神戸市立博物館消防計画の改訂。
・博物館防災計画の改訂。

D実施内容
・南海トラフ地震防災規定の制定の伴い、博物館防災計画に地震発生時の館内放送内容を追記、周知。
・博物館防災計画改定に伴い、神戸市立博物館消防計画（人事異動の反映、設備総括管理業務業者の変更等）の改訂、周知。
・消防訓練の実施：10月27日。

自己評価の詳細 プラス面
・地震発生時の避難誘導館内放送原稿を作成。（3パターン）
・人事異動に伴う修正及び設備総括管理業者変更に伴う担当者名変更。

自己評価の詳細 マイナス面
周知の評価が困難。